



JPX-NIKKEI 400

# オルガノ株式会社 2026年3月期 決算説明会資料

---

(証券コード:6368)

2026年5月14日



ORGANO CORPORATION

# 目次

---

1. 26年3月期実績・27年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 参考資料(1) 財務データ集
5. 参考資料(2) 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位未満切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

# 目次

---

1. 26年3月期実績・27年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 参考資料(1) 財務データ集
5. 参考資料(2) 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位未満切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

# 26年3月期実績・27年3月期計画の概要

## 2026年3月期 実績

**受注高** 大型案件の受注時期ずれも、台湾・米国の電子産業向け大型案件を複数受注

**売上高** 大型案件の工事進捗により、電子産業分野中心に拡大

**営業利益** 電子産業分野の売上拡大に加え、海外プラント案件の利益率改善が寄与

## 2027年3月期 計画

**受注高** 主に台湾・米国で最先端半導体関連の投資が活発な状況、受注拡大を計画

**売上高** 受注好調な電子産業分野のプラント売上が拡大、ソリューション事業の拡大も計画

**営業利益** 人件費・研究開発費などの増加を計画するが、売上拡大により営業利益率は前期並を見込む

(単位:百万円)	26.3期実績	前期比	前回見込比 (2025.10.31)
受注高	<b>167,956</b>	+16,684 +11.0%	<b>-17,044</b> <b>-9.2%</b>
売上高	<b>177,654</b>	+14,385 +8.8%	+2,654 +1.5%
営業利益	<b>37,648</b>	+6,528 +21.0%	+1,648 +4.6%
%	<b>21.2%</b>	+2.1pt	+0.6pt
ROE	<b>21.5%</b>	-0.2pt	—

	27.3期計画	前期比
受注高	<b>230,000</b>	+62,044 +36.9%
売上高	<b>200,000</b>	+22,346 +12.6%
営業利益	<b>40,000</b>	+2,352 +6.2%
%	<b>20.0%</b>	-1.2pt
ROE	<b>20.0%</b>	-1.5pt

# 27年3月期計画の前提

受注高 2,300億円  
(前期比+36.9%)

売上高 2,000億円  
(同+12.6%)

営業利益 400億円  
(同+6.2%)

中東情勢などの地政学リスクを背景に石油化学製品などの不足・値上げを懸念。影響が長期化した場合には各種原材料の調達や輸送コスト等への影響が想定されるが、現時点では業績に大きな影響を及ぼす事態は生じていない。主力市場である電子産業分野においては、エネルギーや各種材料の調達や市況等の動向が投資計画に影響する可能性も懸念されるが、現時点では先端半導体を中心に国内外で高水準の設備投資を想定。

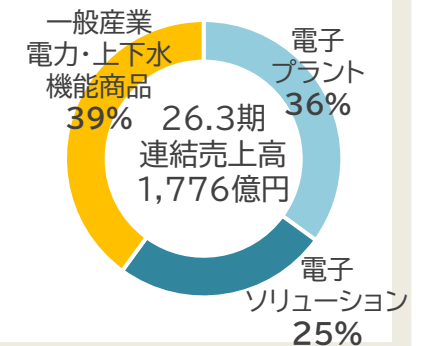
## 中東情勢の影響

- 原油価格の動向や材料調達・輸送コストなどへの影響はイオン交換樹脂や膜、水処理薬品などの機能材料や各種の配管やポンプ・バルブなど多くの材料の調達に波及。影響が長期化した場合には売上原価の上昇や納期の遅延等を懸念
- 受注時のコスト積算に基づいて契約金額を決定しているため、想定以上の材料価格・輸送費上昇や納期の遅延等が発生した場合には利益の圧迫要因となるが、不可抗力によって価格・納期の変動が発生する場合には契約金額の追加交渉を実施

## 半導体市況の影響

- 大型投資計画によって電子-プラント部門比率は拡大傾向で推移。設備投資の時期・規模が変動するケースもあるため案件の動向を注視
- 一方、電子-ソリューション部門や一般産業、電力・上下水や機能商品などは市況の影響を受けにくい。比較的高い利益水準を維持できており、安定的な収益基盤として期待

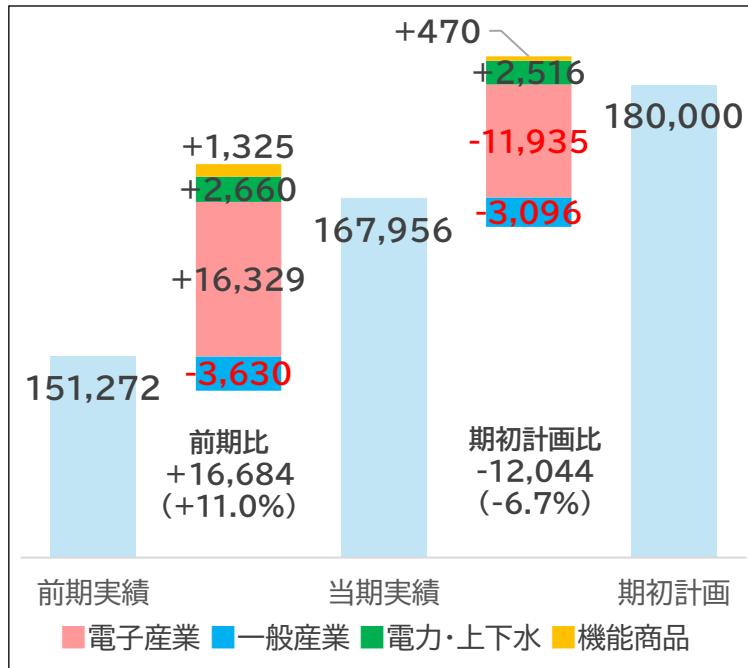
### 売上ポートフォリオ



# 2026年3月期 実績

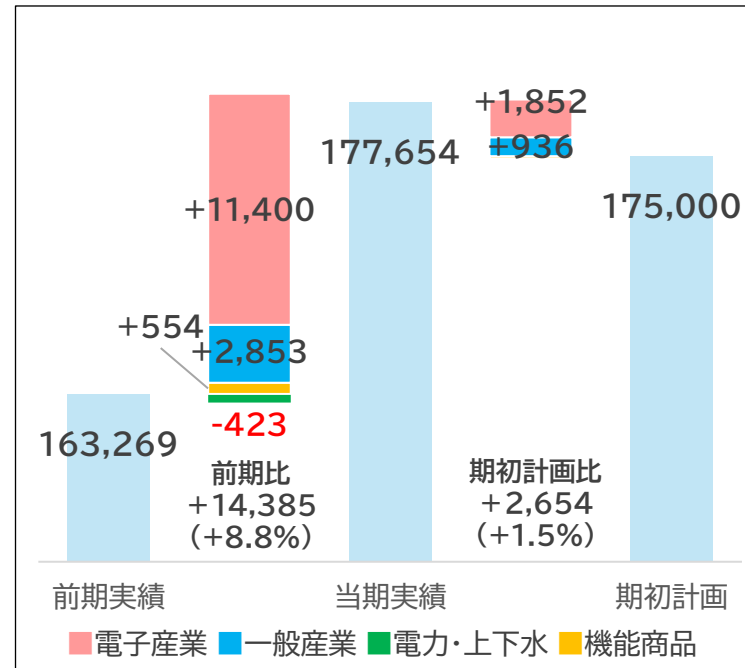
## 受注高

前期比は電子産業分野で海外大型案件の受注が拡大。  
 計画比は大型案件の動向が影響し減少も、半導体投資は引き続き活発



## 売上高

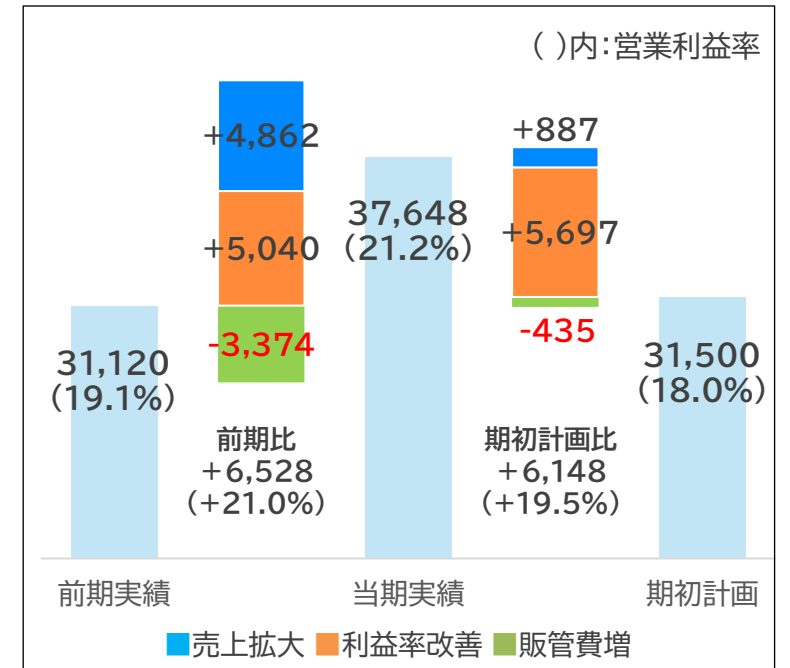
前期比は電子産業分野でプラント、ソリューションともに売上拡大。  
 計画比は各事業とも概ね想定通り推移し、期初計画並の水準で着地



## 営業利益

前期比は売上の拡大に加え、海外プラント案件の利益率改善が寄与。  
 計画比は海外プラント案件の利益率改善が寄与し増益

(単位:百万円)  
 ※300百万円以上の増減を記載



# 2027年3月期 計画

## 受注高

電子産業分野は米国・台湾・日本で大型プラント案件の受注を計画。一般産業、電力・上下水、機能商品は堅調な推移を想定

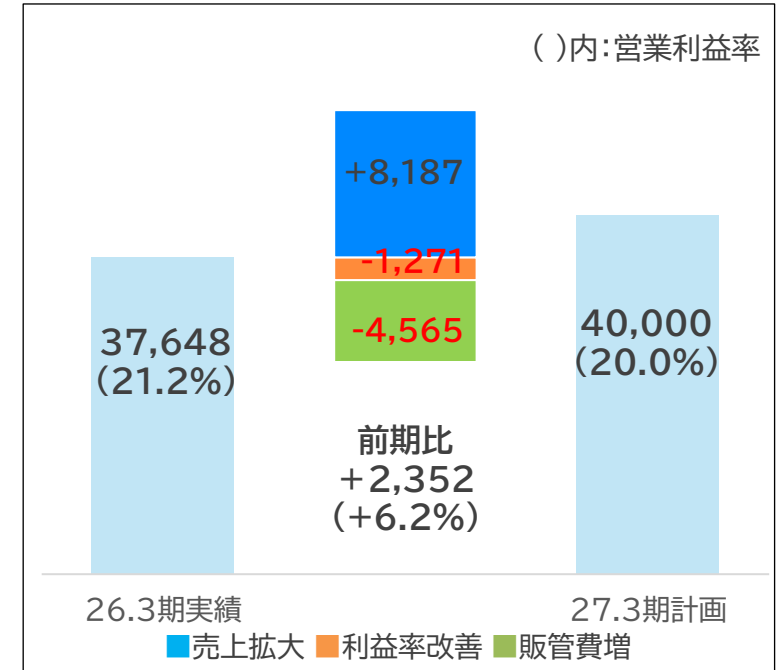
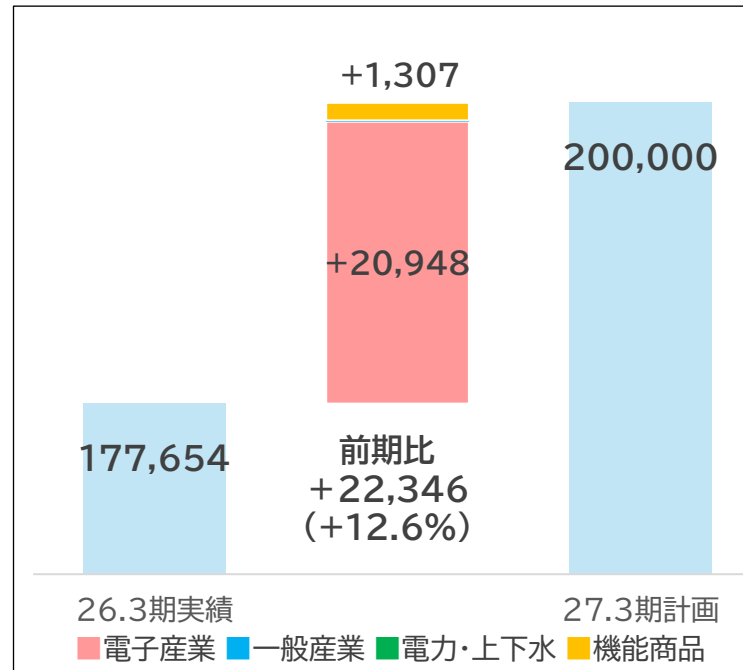
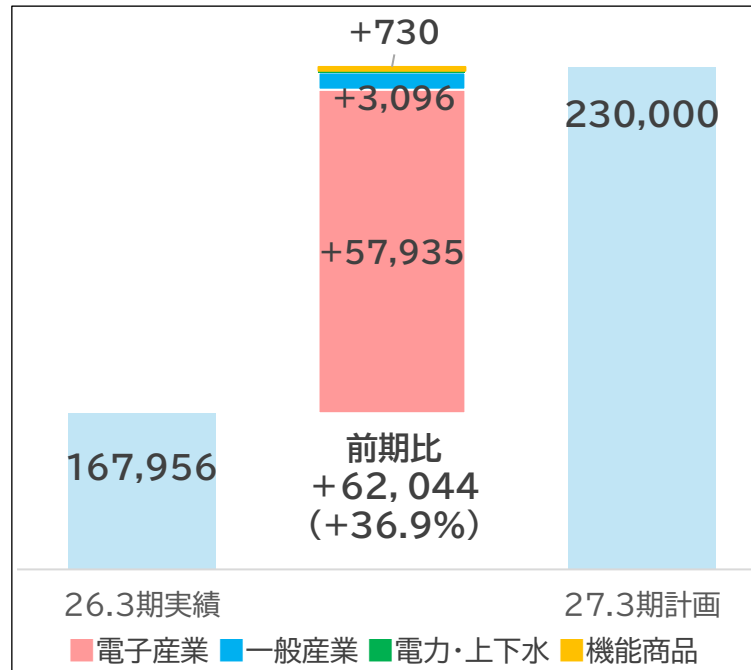
## 売上高

海外の最先端半導体投資など電子産業分野の売上拡大を計画。一般産業、電力・上下水、機能商品は堅調な推移を想定

## 営業利益

電子産業分野を中心とした売上拡大により営業利益増を計画。販管費は人件費や研究開発費、デジタル投資など拡大を見込む

(単位:百万円)  
※300百万円以上の増減を記載



# 目次

---

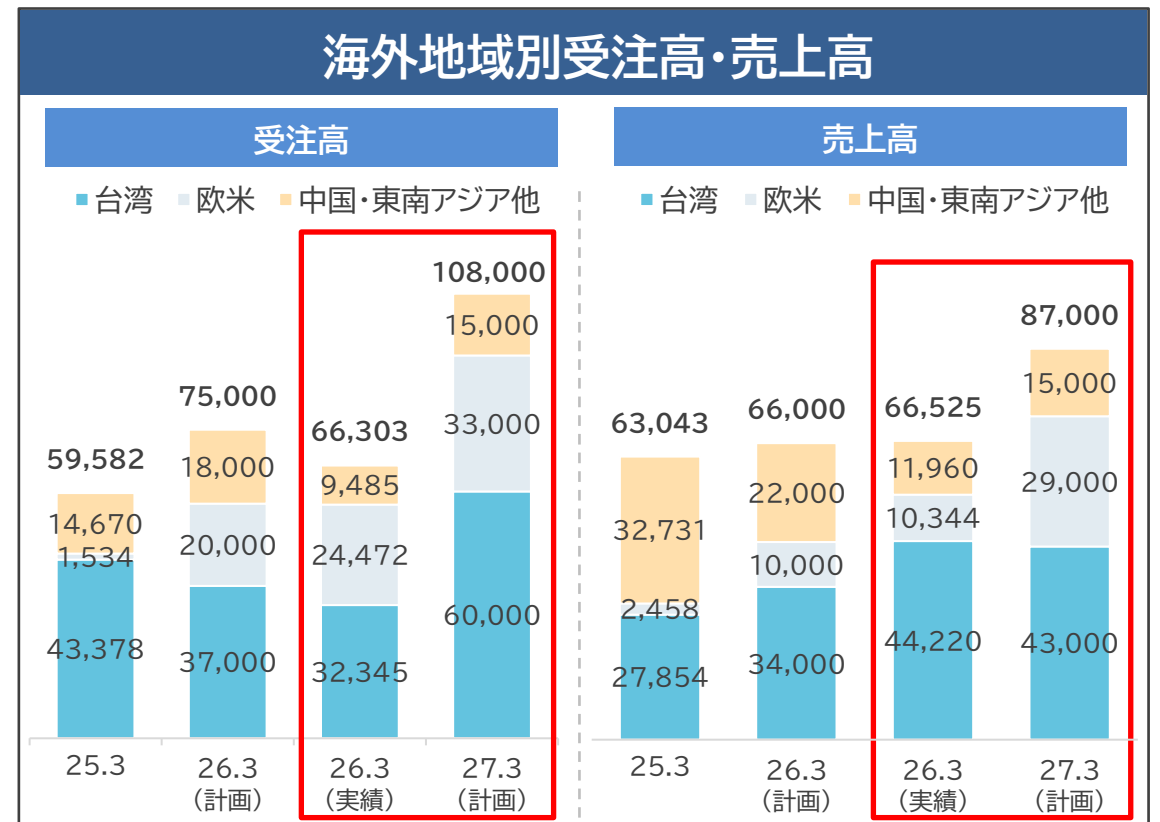
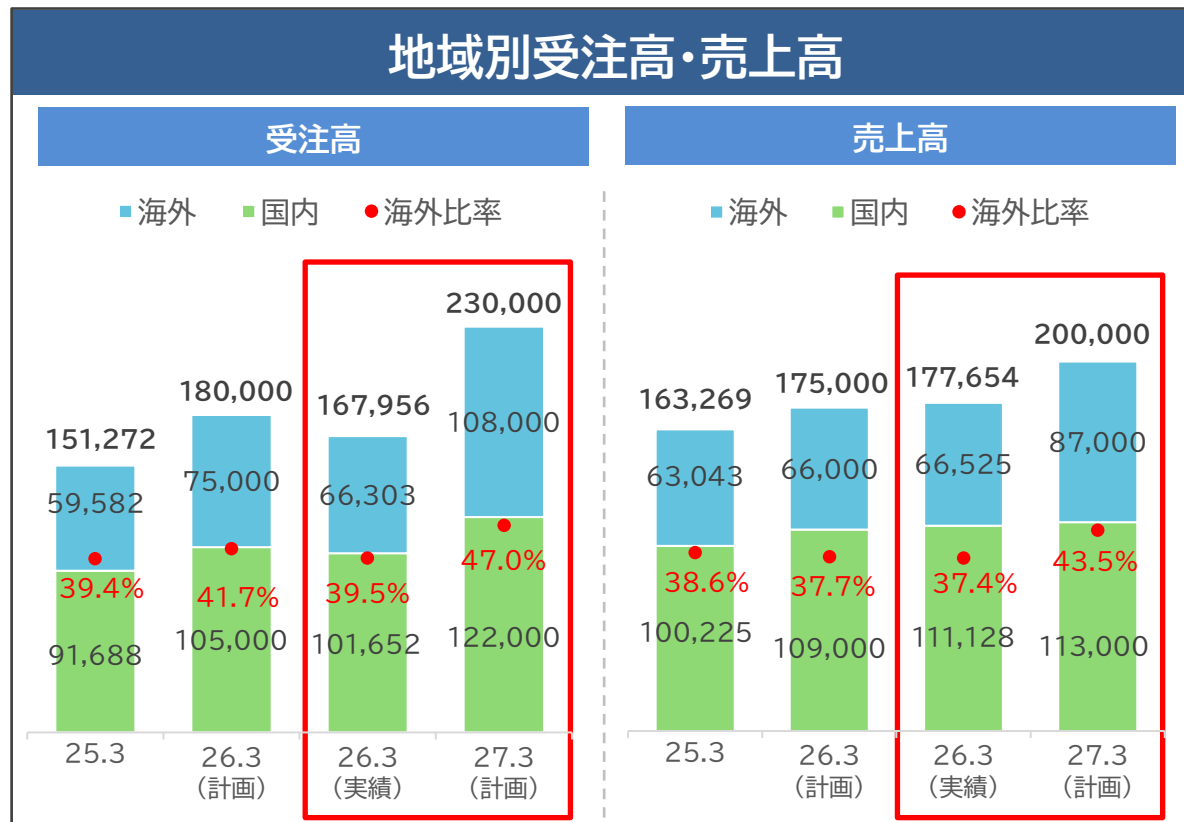
1. 26年3月期実績・27年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 参考資料(1) 財務データ集
5. 参考資料(2) 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位未満切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

# 地域別受注高・売上高の推移

受注は一部案件で期ずれも、海外中心に活発な半導体投資が続く  
 売上は大型案件の工事進捗が順調、国内・海外とも好調に推移

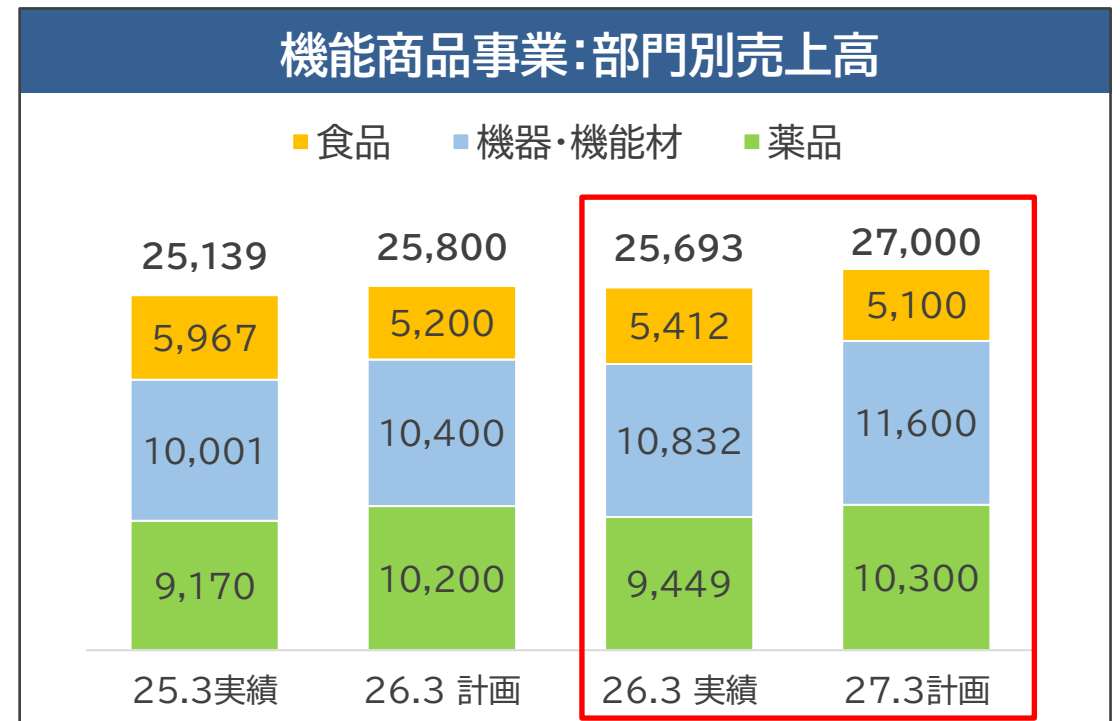
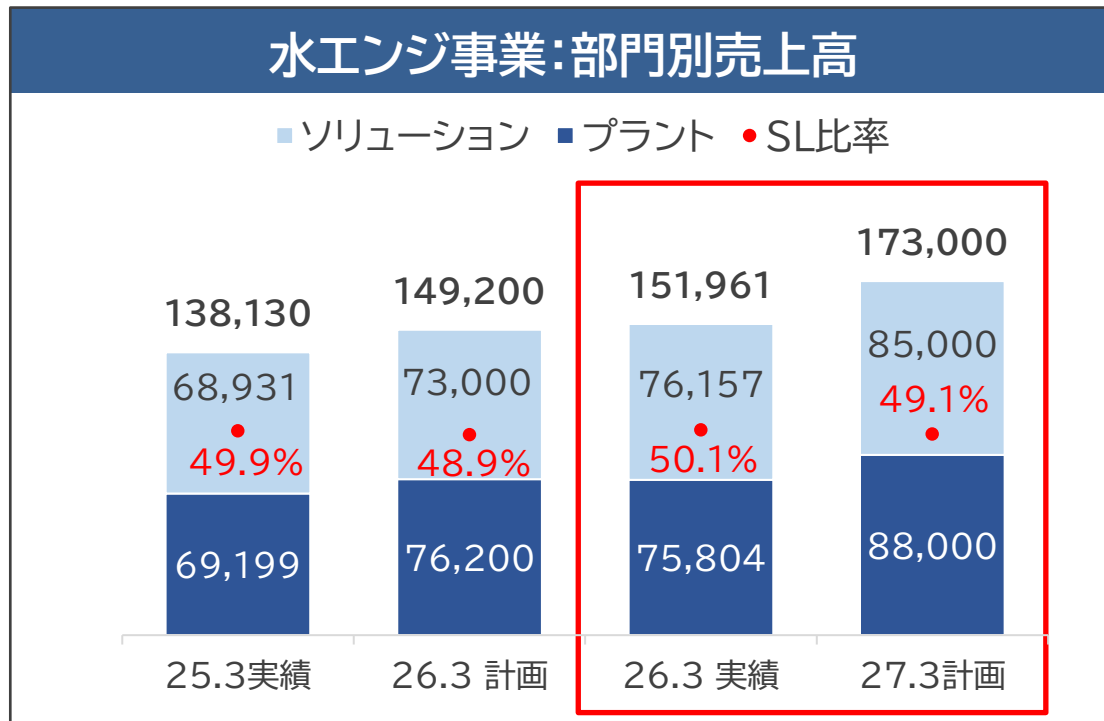
(単位:百万円)



# 事業セグメント別・部門別売上高の推移

プラントは台湾・米国などで活発な先端半導体投資による売上拡大  
 ソリューションはメンテナンスや設備保有型サービスなど順調  
 機能商品は薬品、機器・機能材など堅調な売上拡大を計画

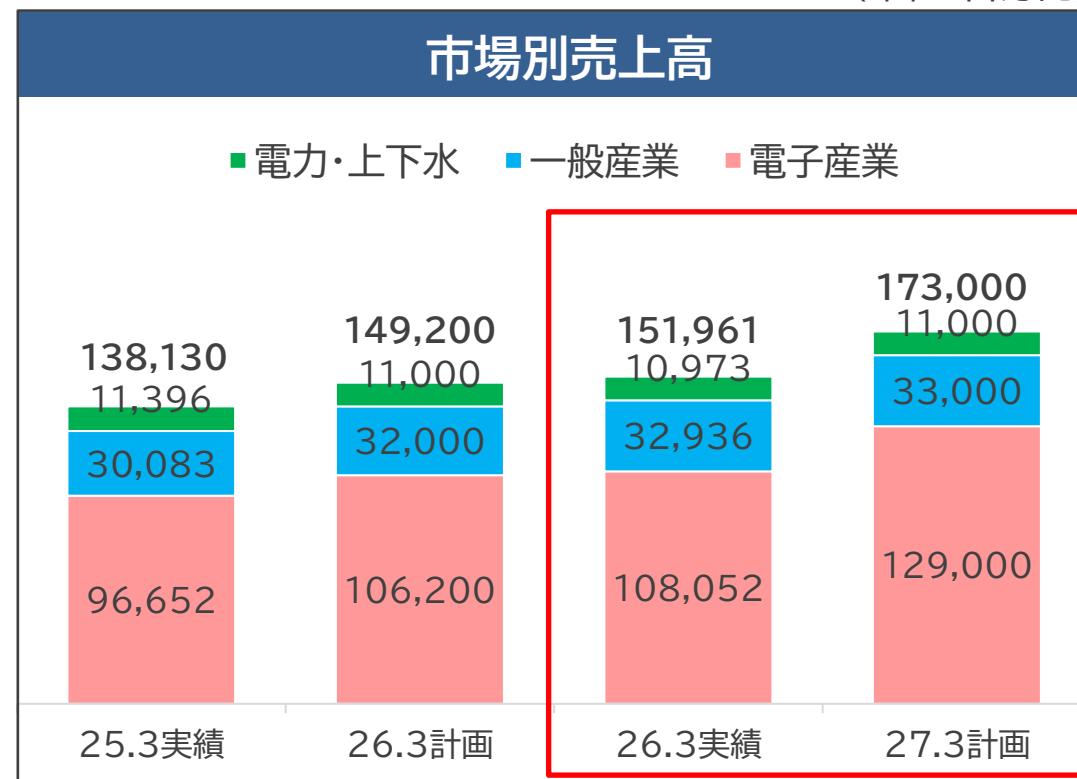
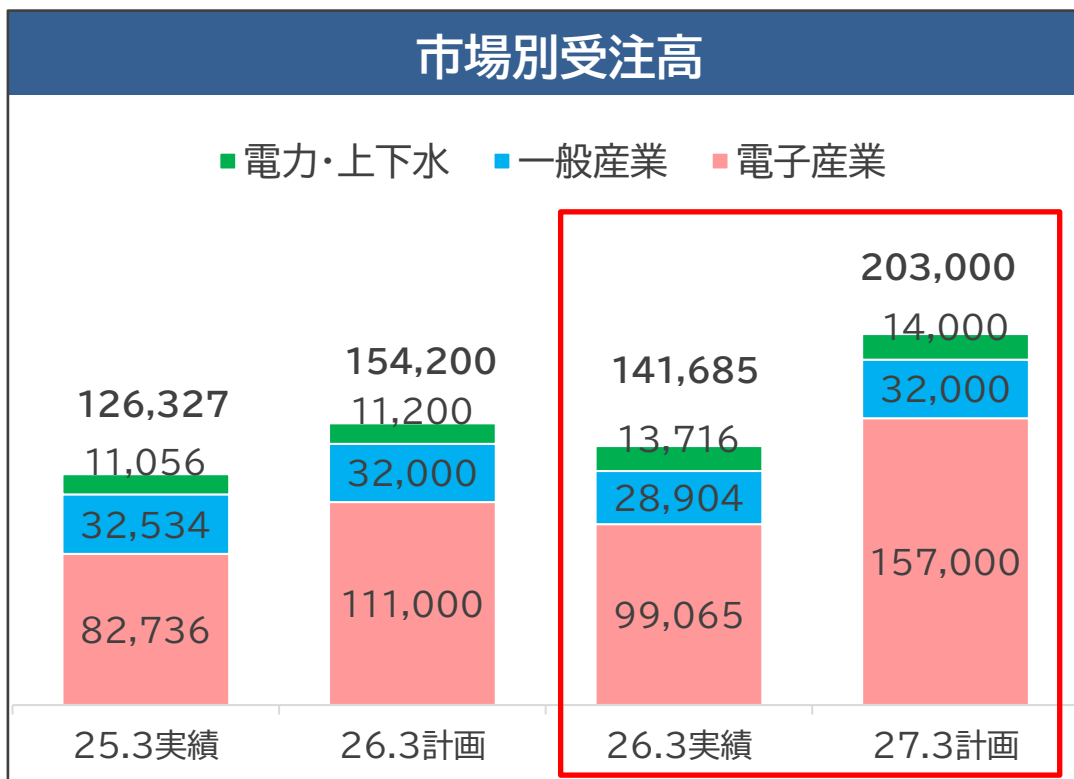
(単位:百万円)



# 水エンジニアリング事業：市場別受注高・売上高の推移

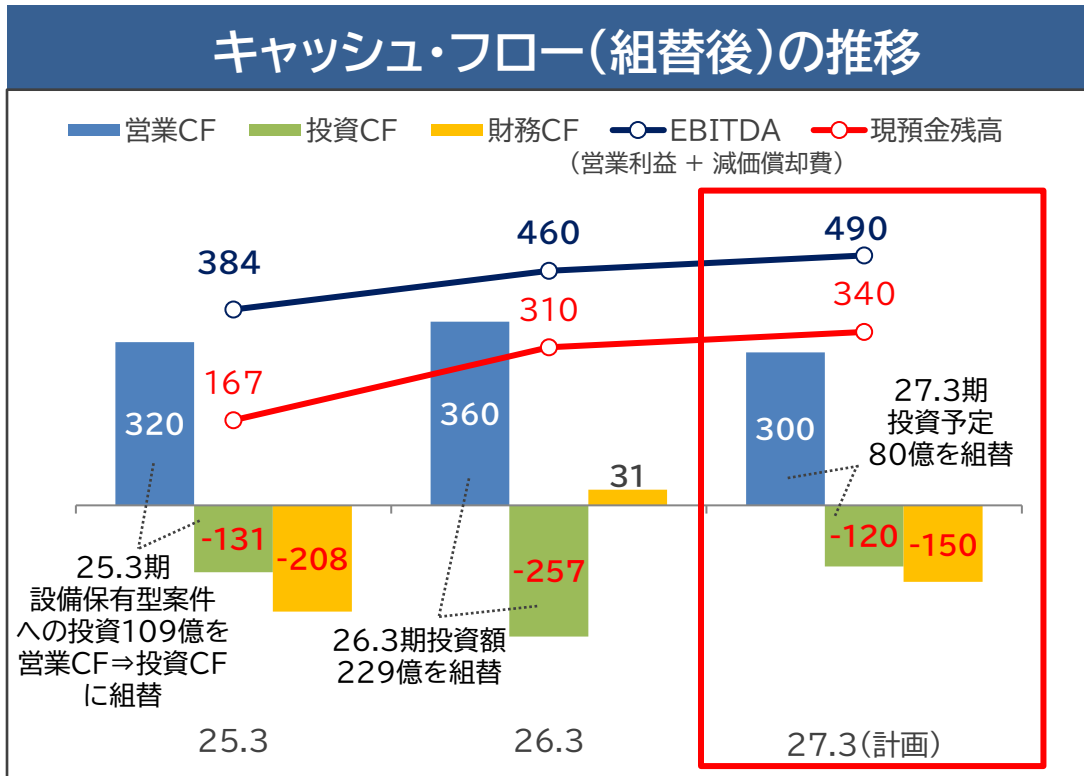
電子産業は台湾・米国など最先端半導体の投資続く、受注・売上は拡大傾向で推移  
 一般産業は大型案件の動向で26.3期は受注高減少も、売上高は順調に拡大  
 電力・上下水は原発の再稼働や火力発電所のリプレース案件を受注、売上も堅調

(単位:百万円)

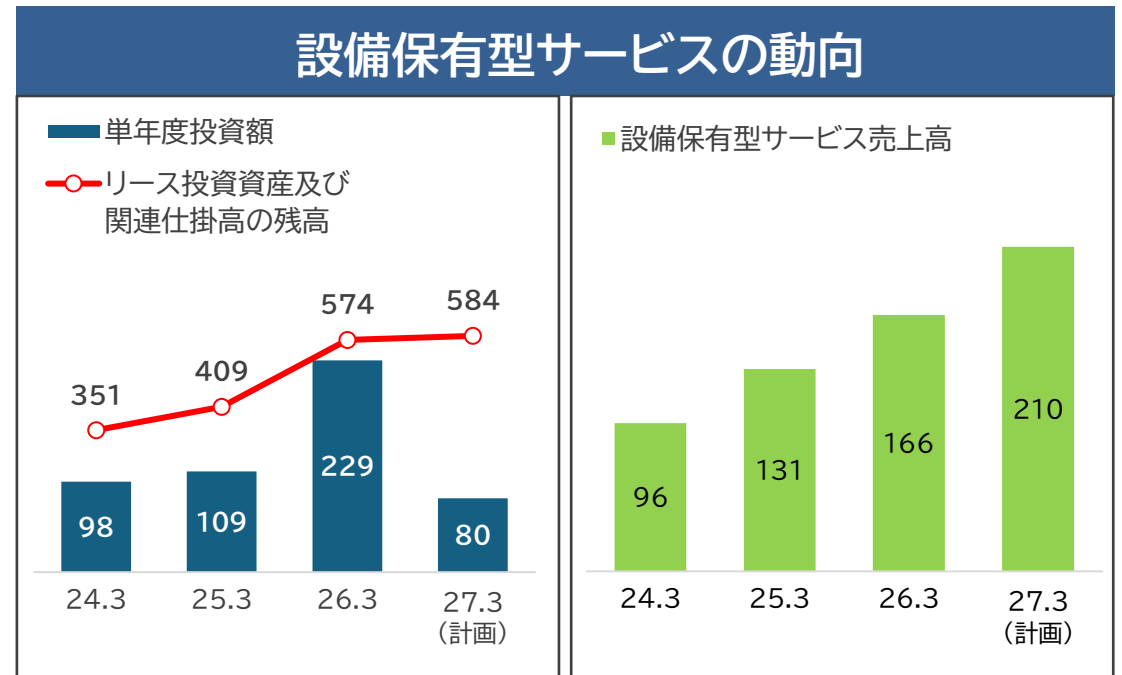


# キャッシュ・フローと設備保有型サービスの動向

(単位:億円)



■ 27.3期に向け、台湾や米国など海外での大型プラント案件の拡大による運転資本の増加を想定。売掛金・仕掛品の増加や原材料・工事代金の支払などに加え、材料調達の長納期化に備えた在庫の積み増しなど見据え、現預金を厚めに確保する想定



■ 設備保有型への投資額は「リース投資資産」(建設中は仕掛品)に計上、契約期間に応じて減価償却。流動資産に含まれるため、CF計算書では投資額を営業CFとして計上。左記のグラフでは設備保有型への投資額を投資CFに組替

■ 設備保有型サービスへの大型投資は一巡も、引き続き投資計画あり。設備の稼働開始により順次売上計上がスタートしており、資金回収フェーズへ

# 目次

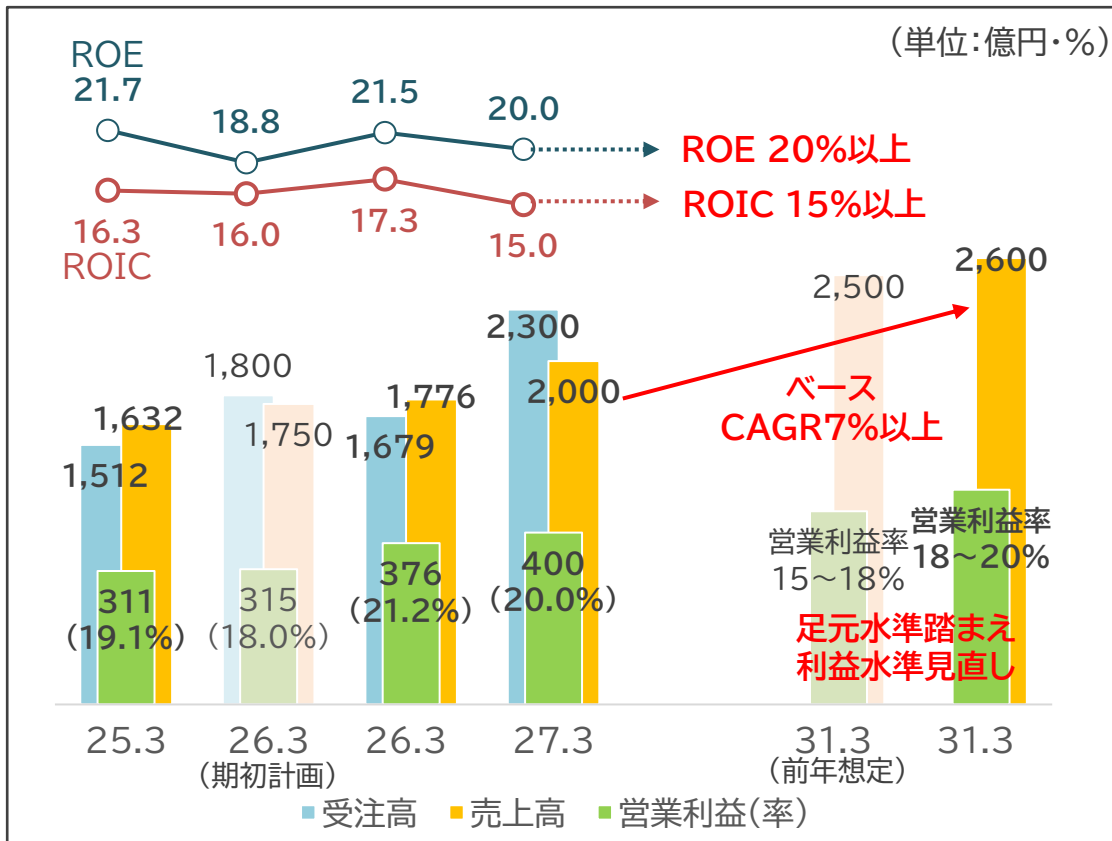
---

1. 26年3月期実績・27年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 参考資料(1) 財務データ集
5. 参考資料(2) 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位未満切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

# 中長期計画:計画の概要

投資動向や利益水準など足元の状況踏まえ31.3期目標を見直し  
台湾・米国など大型案件の動向によって変動の可能性も



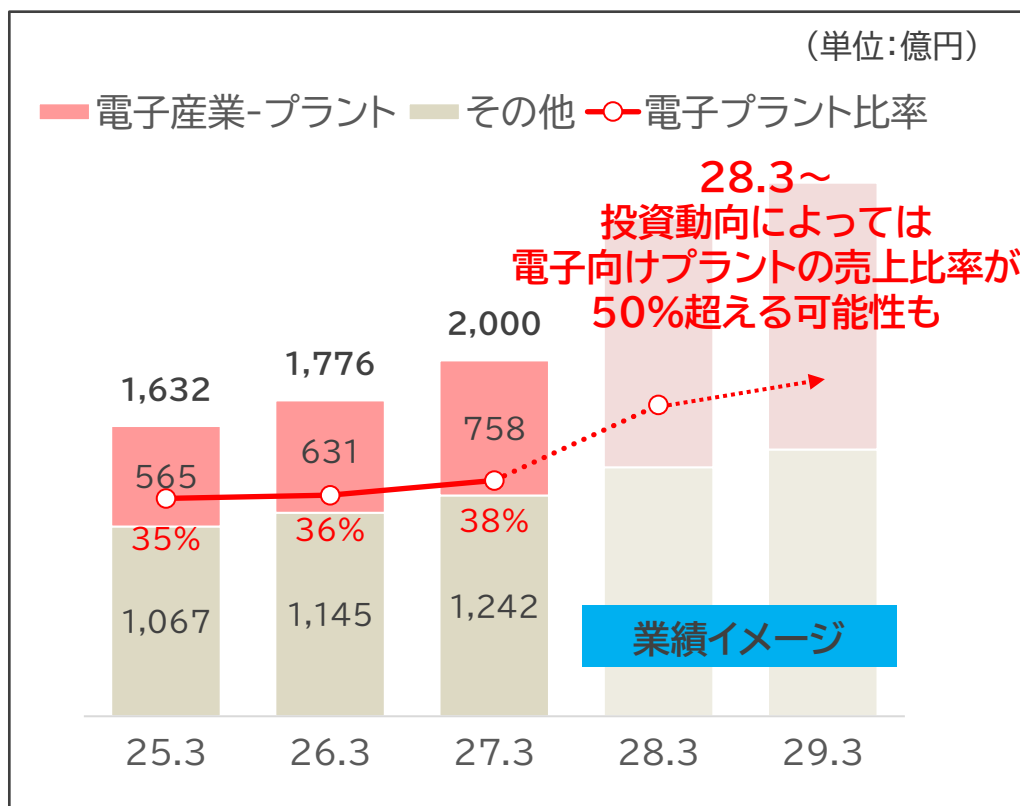
## ORGANO 2030達成目標(2031.3期)

売上高	2,600億円以上 (ベースCAGR 7%以上)
営業利益率	18~20% 足元好調な利益水準を維持
ROE	20%以上 当面は足元の高ROE水準を維持
ROIC	15%以上 効率化に取り組みつつ大型案件に対応

※ROICはNOPAT(税引後営業利益)÷ 投下資本(有利子負債+純資産)で計算

# 中長期計画:リスクと機会

## 最先端半導体の投資動向はダイナミックに推移 大型プラントの売上動向によって業績の想定レンジも拡大



機会

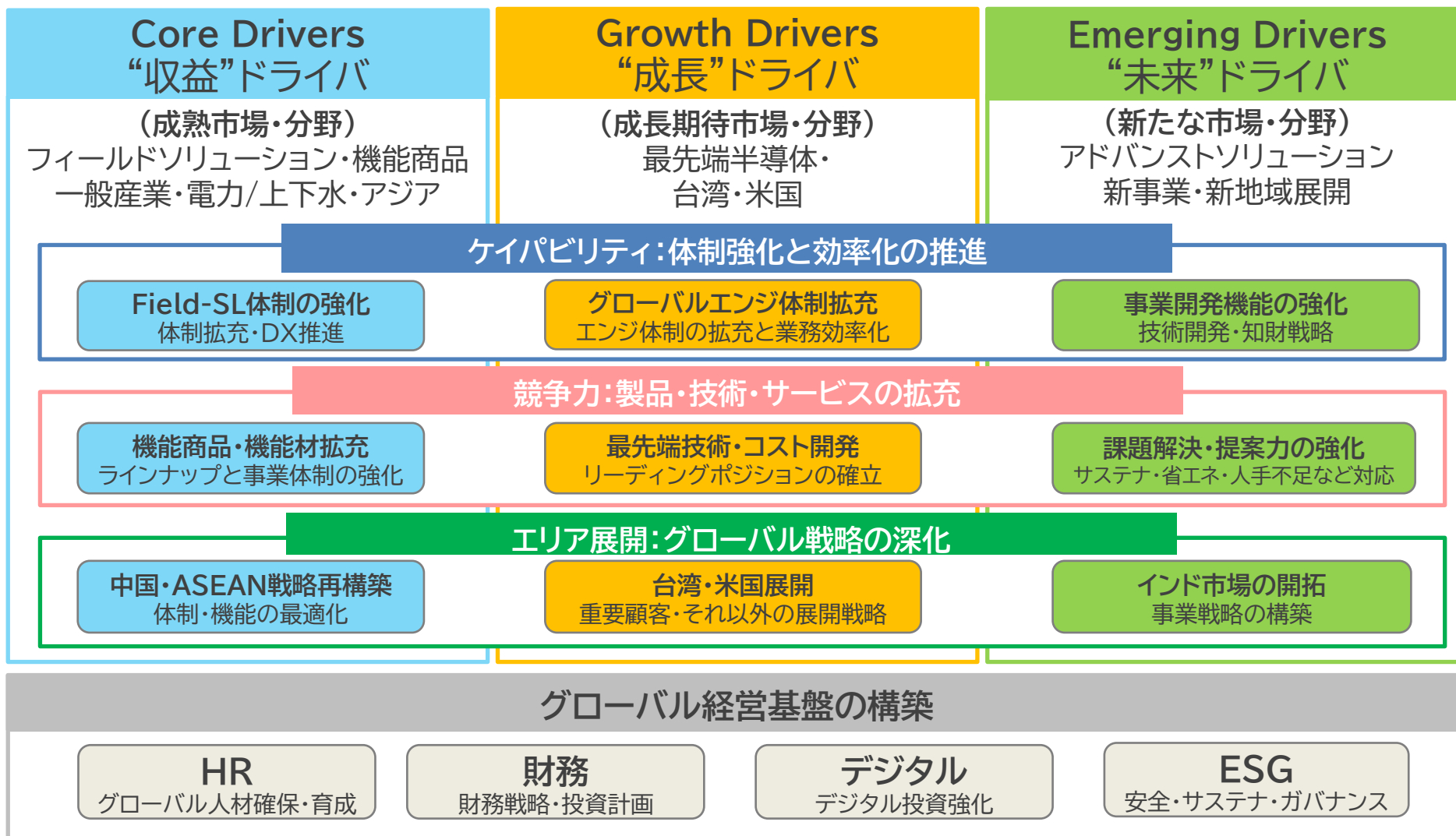
- ・AIなど先端半導体の需要増により、**想定以上のスピード**で投資計画の検討進む
- ・顧客の**投資規模**や**受注スコープの拡大**により米国では当社受注が数百億円規模の計画も

リスク

- ・**地政学**や**市況の変動**、**エネルギー問題**など投資計画の実施時期・規模は流動性高い
- ・案件大型化により**対応リソースの確保**や**コストマネジメント**のリスクも拡大

31.3期目標はプラント売上を一定規模で想定  
27.3期の受注動向踏まえ目標値をUpdate

# 中長期計画に向けた課題・取り組みのUpdate



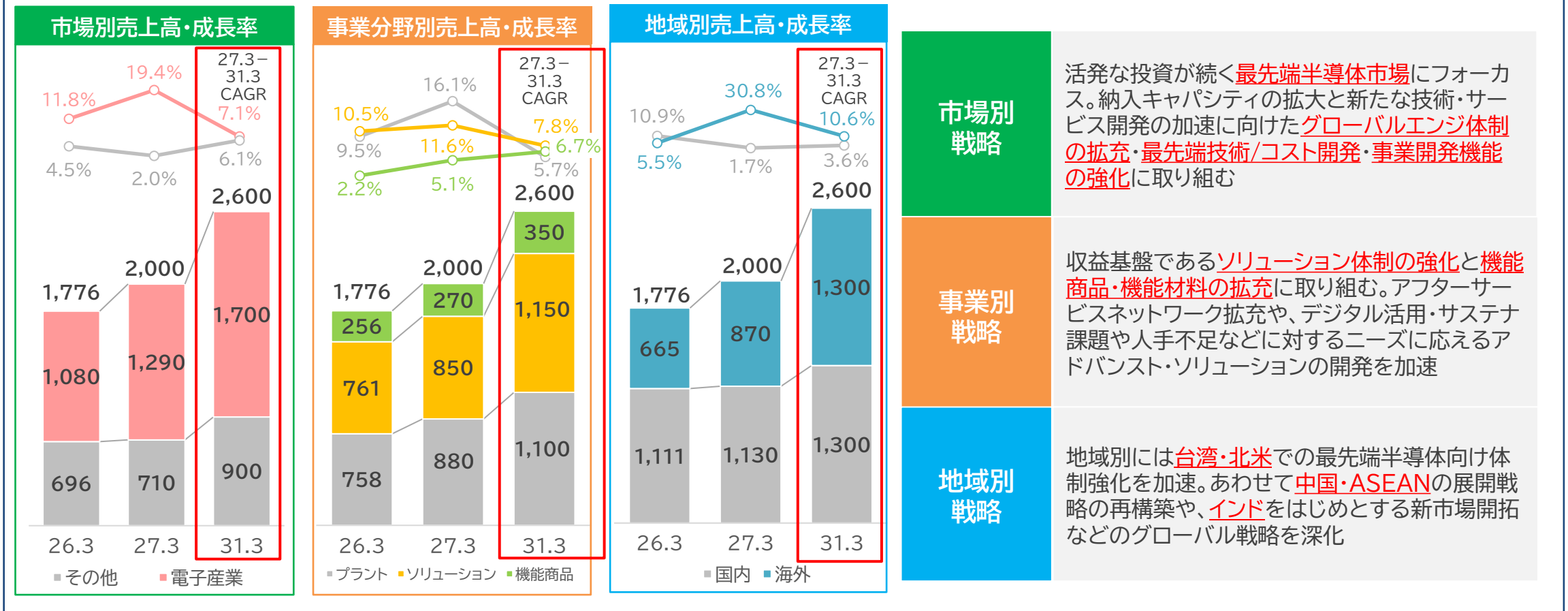
※フィールドソリューション (Field-SL)  
安定収益源として利益を創出する領域

※アドバンストソリューション  
競争力確保と将来の売上貢献のための成長投資をする領域

# 事業成長戦略:部門別計画

(単位:億円)

## 事業成長戦略



# 新たな技術・サービスの展開

## 水以外への分離精製技術の強化

水処理に用いられるイオン交換樹脂や膜などの技術を応用し、**水以外の各種薬液の分離精製技術**や**使用済み溶媒のリサイクル技術**の開発を推進。

高度化が進む先端半導体向けにおいては、**当社が独自開発した電子材料専用の超高純度イオン交換樹脂**を展開し、微細化に貢献。CO<sub>2</sub>排出量の大幅低減が期待できる溶剤などの回収にも展開。

膜分離法を用いた  
NMP溶剤(\*)の回収装置  
\*リチウムイオン二次電池  
に用いられる溶剤



電子材料用  
超高純度  
イオン交換樹脂

## 超純水技術、分析技術の進化

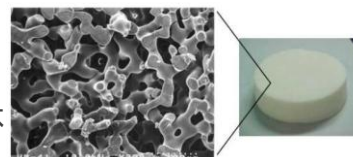
イオン交換樹脂による処理と比べ、使用薬剤等の削減によるコストダウン・廃棄物減容など環境負荷低減効果が期待できる**EDI(電気再生式脱塩装置)**を**自社開発**。競合品と比べてシリカなど弱酸成分の高度処理を実現、先端半導体分野などへの展開を進める。

また当社開発の**モノリス状イオン交換体**は、その優れた機能により、次世代高度分離精製や超微量分析技術の向上に貢献。



大流量・高度処理が  
可能なEDI  
GR-XPシリーズ

当社が  
独自開発した  
モノリス状イオン交換体



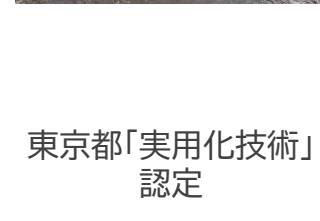
## 次世代下水処理技術の開発

好気性微生物が高密度に自己造粒したグラニューール(粒状の塊)を用いた**連続式下水処理技術AGSOR®**を開発。従来法に比べて**高効率処理・省スペース化**を実現したことに加え、**設備更新の負担を大幅に軽減**。

既存の大規模処理場への展開を期待。国内では実証試験を経て実用化技術として東京都から認定され、米国ではカンザス州の下水処理場で実証試験中。



米国で稼働中の  
グラニューール形成槽



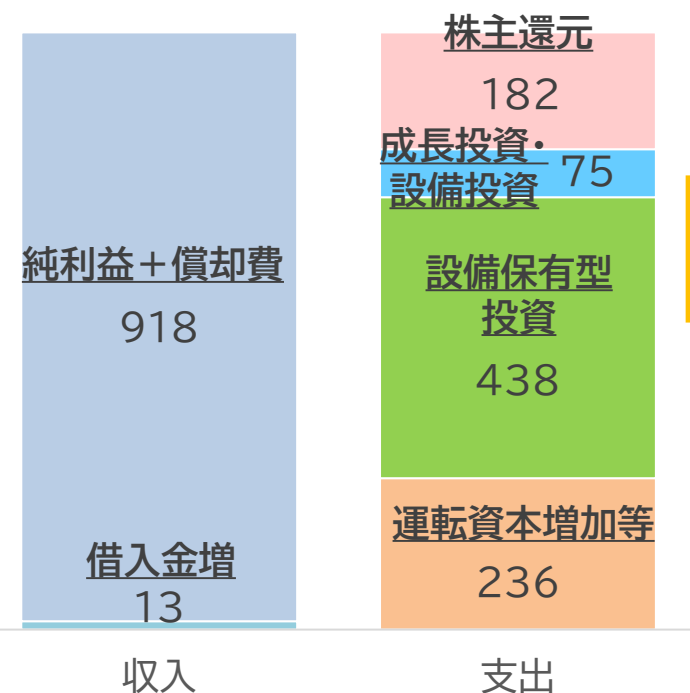
東京都「実用化技術」  
認定

# 財務戦略: キャピタルアロケーション計画

## キャピタルアロケーション

(単位: 億円)

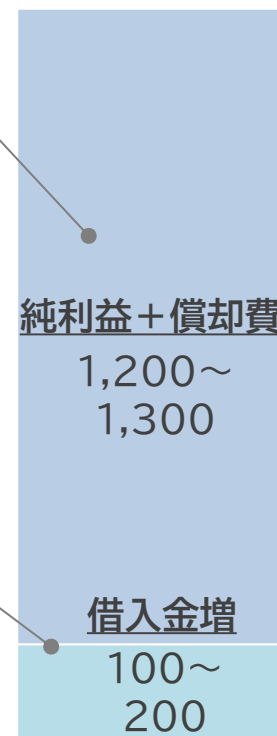
24.3~26.3期実績



27.3~29.3期計画

売上拡大や設備保有型契約の回収が本格化。人件費や研究開発・デジタル関連の投資など固定費の拡大も想定

成長投資の拡大や運転資本増加の原資として借入金を活用



配当性向30%以上、さらなる改善に取り組む

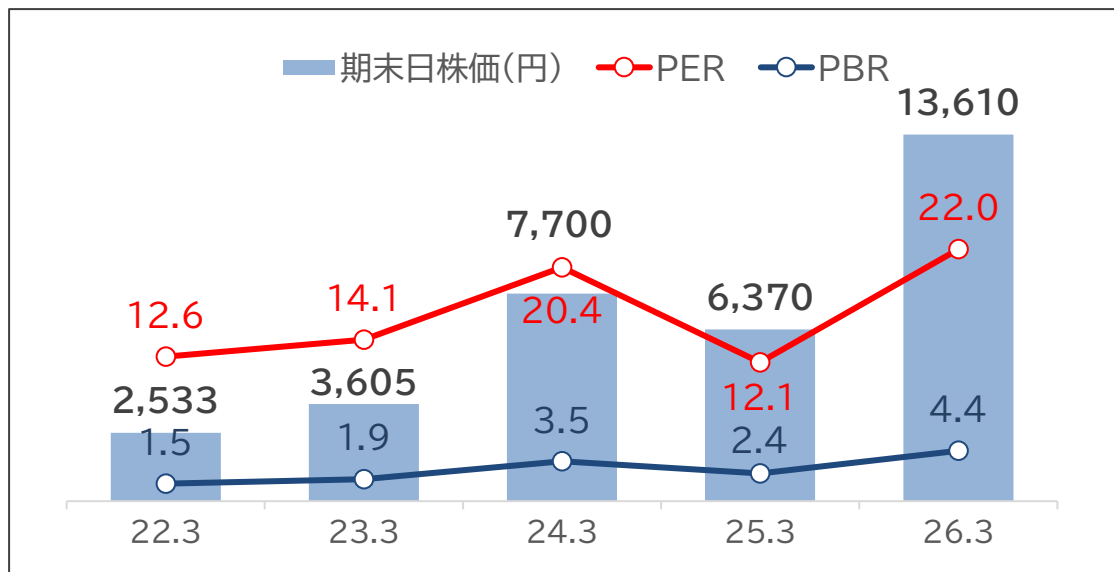
キャパシティ拡大や経営インフラ整備、M&Aなどの成長投資を拡大

安定収益源として設備保有型への投資も継続

売上拡大で売掛債権や棚卸資産など運転資本の拡大を想定。効率化によるCCC短縮化に取り組む

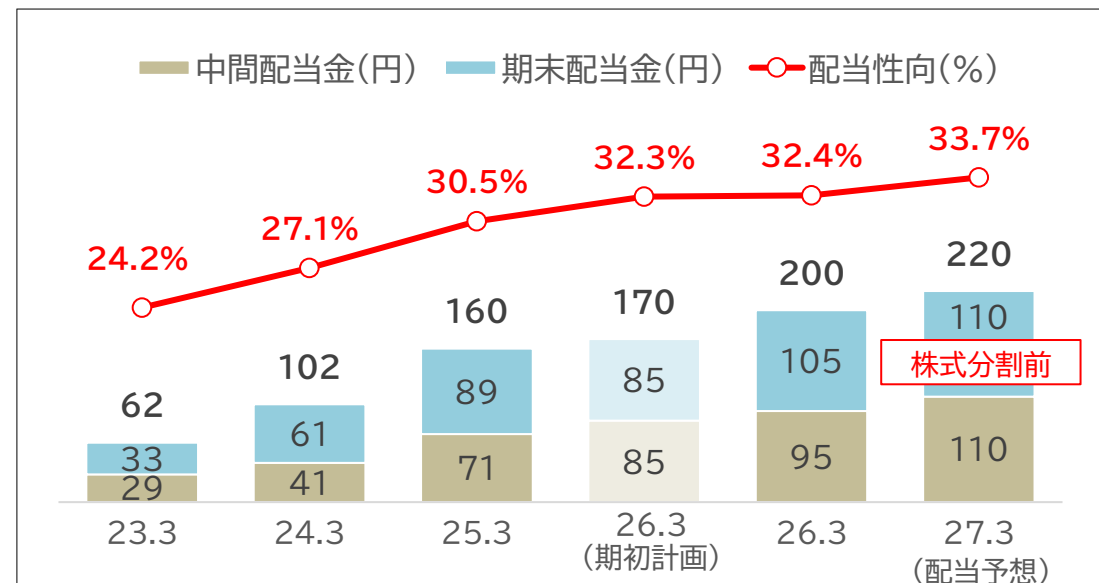
# 財務戦略: 株価の推移と株主還元施策

## 株価の推移・株式分割の実施



- 地政学リスクなどを背景に、期中の株価には変動が見られたものの、好調な業績などを背景に26.3期は大きく上昇
- 株価の上昇によって、株式の投資単位当たりの金額が東京証券取引所の基準を上回る状況が続いていることから、投資単位の引き下げによって、より投資しやすい環境を整え、株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的に、**2026年10月1日**を効力発生日として当社普通株式1株につき5株の割合をもって株式分割を実施

## 株主還元施策



- 株主還元については、安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針とした上で、成長投資と株主還元の強化を両立させることを目指し、**配当性向30%以上の水準を維持しつつ、さらなる配当性向の改善**に取り組んでまいります  
※上記グラフの27.3期配当予想額は株式分割前の金額

# 目次

---

1. 26年3月期実績・27年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 参考資料(1) 財務データ集
5. 参考資料(2) 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位未満切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

# 26年3月期:連結損益計算書

(単位:百万円)	25.3期 通期実績	26.3期 期初計画	26.3期 前回見込 (2025.10.31)	通期実績	前期比	期初 計画比	前回 見込比
受注高	151,272	180,000	185,000	<b>167,956</b>	+16,684 +11.0%	<b>-12,044</b> <b>-6.7%</b>	<b>-17,044</b> <b>-9.2%</b>
売上高	163,269	175,000	175,000	<b>177,654</b>	+14,385 +8.8%	+2,654 +1.5%	+2,654 +1.5%
売上総利益	55,182	58,500	63,000	<b>65,084</b>	+9,902 +17.9%	+6,584 +11.3%	+2,084 +3.3%
%	33.8%	33.4%	36.0%	<b>36.6%</b>	+2.8pt	+3.2pt	+0.6pt
販管費	24,061	27,000	27,000	<b>27,435</b>	+3,374 +14.0%	+435 +1.6%	+435 +1.6%
営業利益	31,120	31,500	36,000	<b>37,648</b>	+6,528 +21.0%	+6,148 +19.5%	+1,648 +4.6%
%	19.1%	18.0%	20.6%	<b>21.2%</b>	+2.1pt	+3.2pt	+0.6pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	24,150	24,200	27,000	<b>28,401</b>	+4,251 +17.6%	+4,201 +17.4%	+1,401 +5.2%

# 26年3月期:セグメント別の業績

(単位:百万円)		25.3期 通期実績	26.3期 期初計画	26.3期 前回見込 (2025.10.31)	通期実績	前期比	期初 計画比	前回 見込比
全社	受注高	151,272	180,000	185,000	<b>167,956</b>	+16,684 +11.0%	-12,044 -6.7%	-17,044 -9.2%
	売上高	163,269	175,000	175,000	<b>177,654</b>	+14,385 +8.8%	+2,654 +1.5%	+2,654 +1.5%
	営業利益	31,120	31,500	36,000	<b>37,648</b>	+6,528 +21.0%	+6,148 +19.5%	+1,648 +4.6%
	%	19.1%	18.0%	20.6%	<b>21.2%</b>	+2.1pt	+3.2pt	+0.6pt
水 エ ン ジ	受注高	126,327	154,200	159,200	<b>141,685</b>	+15,358 +12.2%	-12,515 -8.1%	-17,515 -11.0%
	売上高	138,130	149,200	149,200	<b>151,961</b>	+13,831 +10.0%	+2,761 +1.9%	+2,761 +1.9%
	営業利益	27,382	27,630	32,130	<b>34,339</b>	+6,957 +25.4%	+6,709 +24.3%	+2,209 +6.9%
	%	19.8%	18.5%	21.5%	<b>22.6%</b>	+2.8pt	+4.1pt	+1.1pt
機 能 商 品	受注高	24,944	25,800	25,800	<b>26,270</b>	+1,326 +5.3%	+470 +1.8%	+470 +1.8%
	売上高	25,139	25,800	25,800	<b>25,693</b>	+554 +2.2%	-107 -0.4%	-107 -0.4%
	営業利益	3,738	3,870	3,870	<b>3,309</b>	-429 -11.5%	-561 -14.5%	-561 -14.5%
	%	14.9%	15.0%	15.0%	<b>12.9%</b>	-2.0pt	-2.1pt	-2.1pt

# 26年3月期:連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2025年 3月末時点	2026年 3月末時点	増減		2025年 3月末時点	2026年 3月末時点	増減
現金及び預金	16,751	31,055	+14,304	買掛債務	28,087	22,913	-5,174
売掛債権・契約資産	83,953	85,183	+1,230	短期借入金	18,877	28,402	+9,525
商品・製品・原材料等	11,356	13,177	+1,821	その他	17,436	19,623	+2,187
リース投資資産	35,512	53,856	+18,344	流動負債合計	64,401	70,939	+6,538
仕掛品	11,169	5,386	-5,783	長期借入金	3,680	6,000	+2,320
その他	5,624	3,343	-2,281	その他	5,119	4,965	-154
流動資産合計	164,367	192,002	+27,635	固定負債合計	8,799	10,965	+2,166
固定資産合計	30,028	32,864	+2,836	負債合計	73,201	81,904	+8,703
資産合計	194,396	224,867	+30,471	純資産合計	121,194	142,962	+21,768
				負債純資産合計	194,396	224,867	+30,471
				自己資本比率	62.2%	63.6%	+1.4pt

# 27年3月期:連結損益計算書(計画)

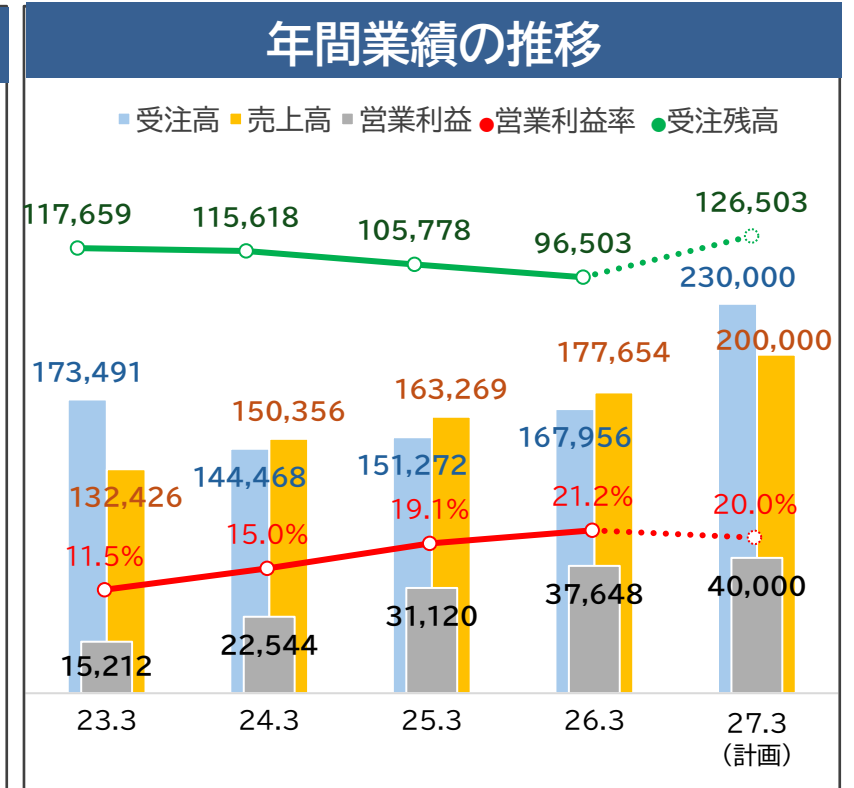
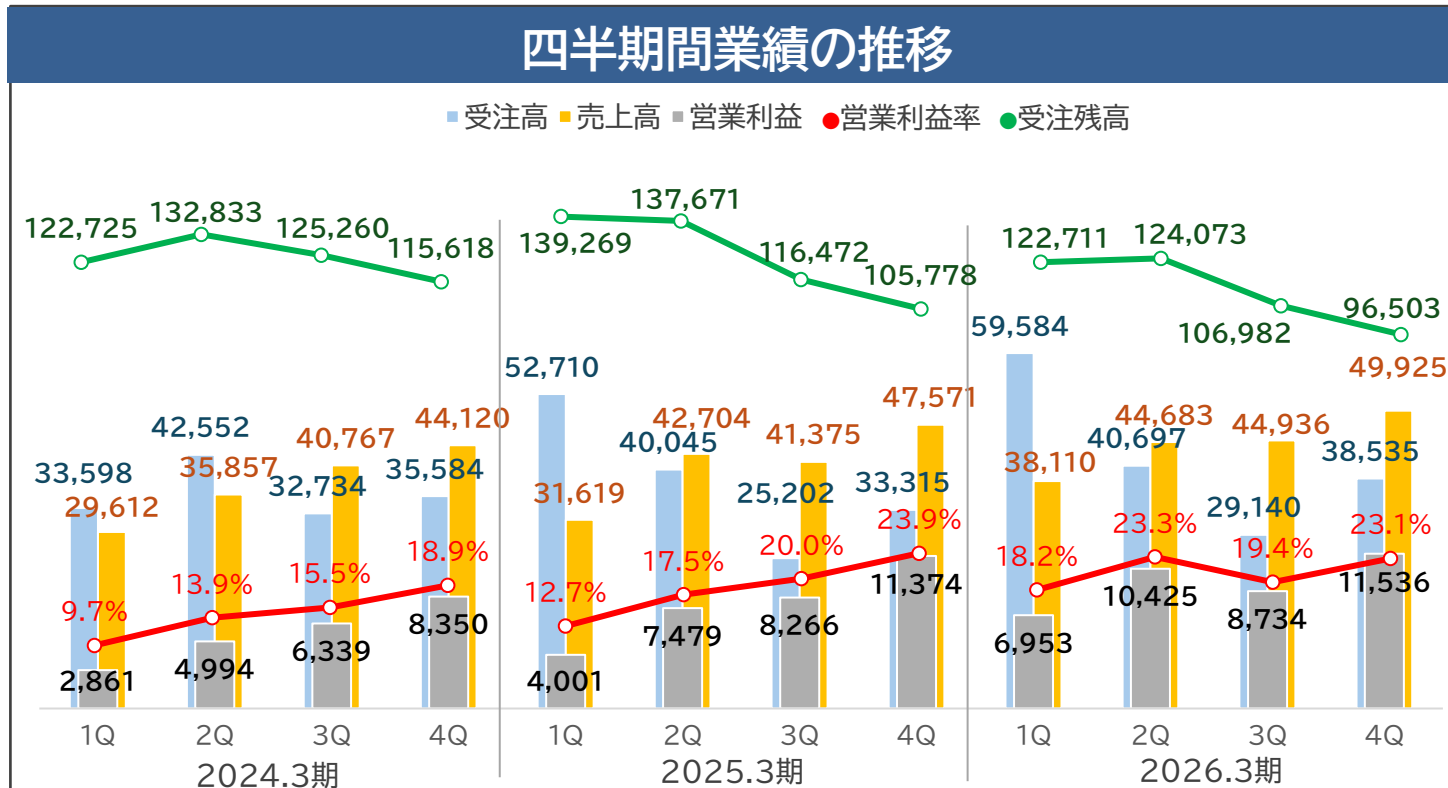
(単位:百万円)	26.3期		27.3期		上期比較	通期比較
	上期実績	通期実績	上期計画	通期計画		
受注高	100,281	167,956	<b>130,000</b>	<b>230,000</b>	+29,719 +29.6%	+62,044 +36.9%
売上高	82,793	177,654	<b>90,000</b>	<b>200,000</b>	+7,207 +8.7%	+22,346 +12.6%
売上総利益	30,125	65,084	<b>32,500</b>	<b>72,000</b>	+2,375 +7.9%	+6,916 +10.6%
%	36.4%	36.6%	<b>36.1%</b>	<b>36.0%</b>	-0.3pt	-0.6pt
販管費	12,747	27,435	<b>15,000</b>	<b>32,000</b>	+2,253 +17.7%	+4,565 +16.6%
営業利益	17,378	37,648	<b>17,500</b>	<b>40,000</b>	+122 +0.7%	+2,352 +6.2%
%	21.0%	21.2%	<b>19.4%</b>	<b>20.0%</b>	-1.6pt	-1.2pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,528	28,401	<b>12,000</b>	<b>30,000</b>	+472 +4.1%	+1,599 +5.6%
ROE	—	21.5%	—	<b>20.0%</b>	—	-1.5pt

# 27年3月期:セグメント別の計画

(単位:百万円)		26.3期		27.3期		上期比較	通期比較
		上期実績	通期実績	上期計画	通期計画		
全社	受注高	100,281	167,956	<b>130,000</b>	<b>230,000</b>	+29,719 +29.6%	+62,044 +36.9%
	売上高	82,793	177,654	<b>90,000</b>	<b>200,000</b>	+7,207 +8.7%	+22,346 +12.6%
	営業利益	17,378	37,648	<b>17,500</b>	<b>40,000</b>	+122 +0.7%	+2,352 +6.2%
	%	21.0%	21.2%	<b>19.4%</b>	<b>20.0%</b>	-1.6pt	-1.2pt
水 工 シ	受注高	87,294	141,685	<b>116,500</b>	<b>203,000</b>	+29,206 +33.5%	+61,315 +43.3%
	売上高	70,549	151,961	<b>76,500</b>	<b>173,000</b>	+5,951 +8.4%	+21,039 +13.8%
	営業利益	15,771	34,339	<b>15,800</b>	<b>36,480</b>	+29 +0.2%	+2,141 +6.2%
	%	22.4%	22.6%	<b>20.7%</b>	<b>21.1%</b>	-1.7pt	-1.5pt
機 能 商 品	受注高	12,987	26,270	<b>13,500</b>	<b>27,000</b>	+513 +4.0%	+730 +2.8%
	売上高	12,243	25,693	<b>13,500</b>	<b>27,000</b>	+1,257 +10.3%	+1,307 +5.1%
	営業利益	1,607	3,309	<b>1,700</b>	<b>3,520</b>	+93 +5.8%	+211 +6.4%
	%	13.1%	12.9%	<b>12.6%</b>	<b>13.0%</b>	-0.5pt	+0.1pt

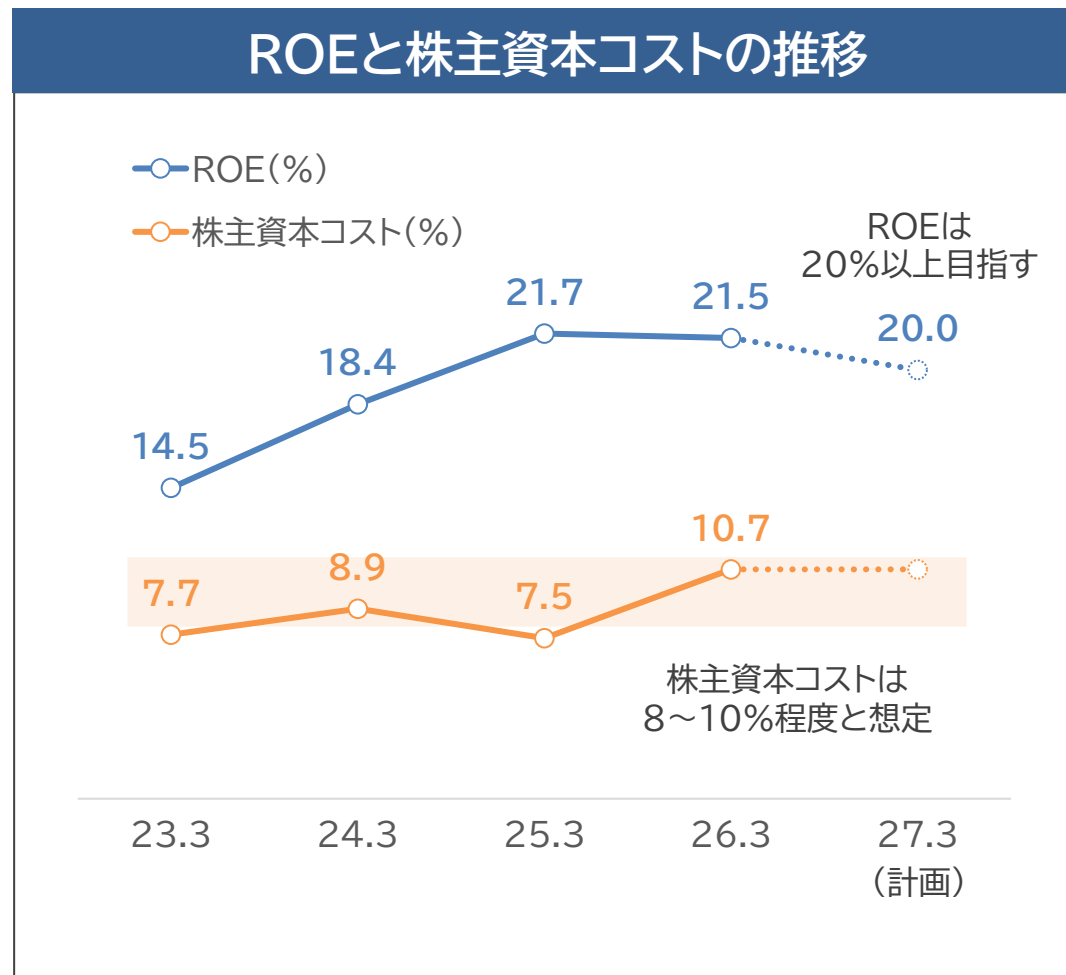
# 受注高・売上高・受注残高・営業利益の推移(四半期・年間)

(単位:百万円)



**受注高** 大型プロジェクトの動向によって変動。最先端半導体を中心に国内外で受注が高水準で推移  
**受注残高** 納期が集中し、売上が拡大する期末に向けて減少する傾向  
**売上高** 工事の進捗率に応じて計上。期末納期の案件も多く、第4四半期に向かって増加する傾向  
**営業利益** プロジェクトの予想原価の変動や追加金の交渉状況により変動。期末に向かって改善する傾向

# ROEと株主資本コストの推移



## ROEの分解(26.3期)

ROE	=	収益性	×	効率性	×	財務健全性
21.5 %		16.0 % 売上高 当期純利益率		0.85 回転 総資産 回転率		1.59 倍 財務 レバレッジ

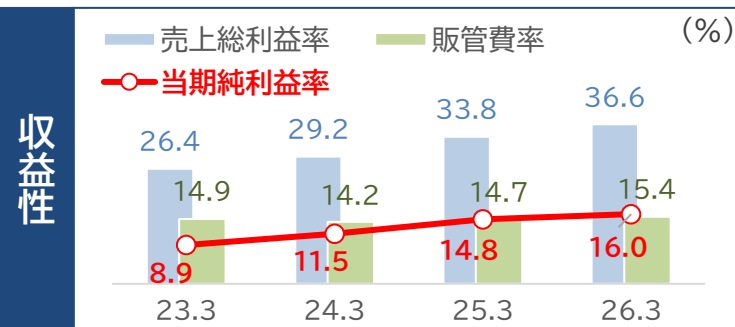
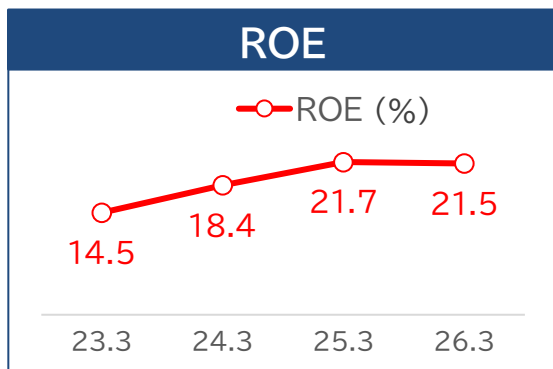
## 株主資本コスト

長期金利の上昇や当社株価の動向などから、株主資本コスト(CAPM)は上昇傾向で推移、直近数年の実績から当社の株主資本コストは8~10%程度と想定

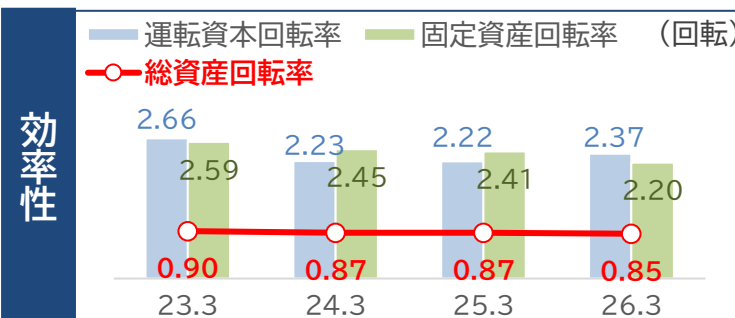
※株主資本コストはCAPM( $R_f + \beta (R_m - R_f)$ )で算出  
 $R_f$ (リスクフリーレート):長期国債(10年)利回り  
 $\beta$ ( $\beta$ 値):株価変動率:1.2~1.5程度  
 $R_m - R_f$ (マーケットリスクプレミアム):5%~6%程度

# ROEの要素分解

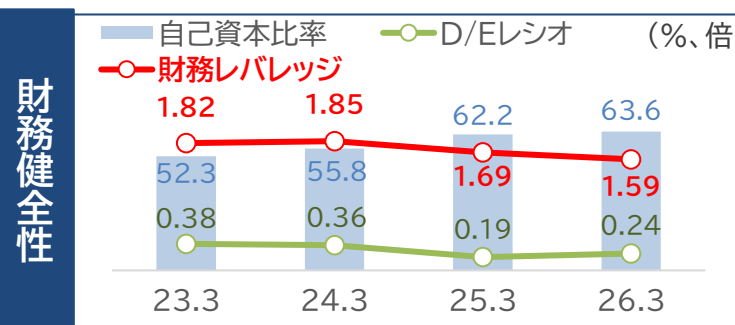
## ROEの要素分解(重点指標)



- ・ROEは売上総利益率の改善をドライバに推移。27.3期以降はプラント拡大で売上総利益率の下押し圧力も。収益性高いソリューションや機能商品を強化
- ・販管費は27.3期以降、人的投資・デジタル・研究開発など将来の成長に向けた拡大を計画



- ・運転資本はリードタイムの長いプラントの売上拡大により増加傾向で推移。売掛債権の回収短縮化や在庫水準の適正化など進める
- ・固定資産は設備保有型資産の拡大も影響。27.3期以降はキャパシティ拡充や経営インフラ整備、M&Aなど成長投資拡大を計画



- ・財務健全性を維持しつつ、成長投資の拡大と株主還元の充実化に取り組む。成長投資の拡大・運転資本の増加は借入金も活用して対応。株主還元は配当性向30%以上の水準を維持、さらなる配当性向の改善に取り組む

※設備保有型サービス関連資産は固定資産に組替えて回転率を計算

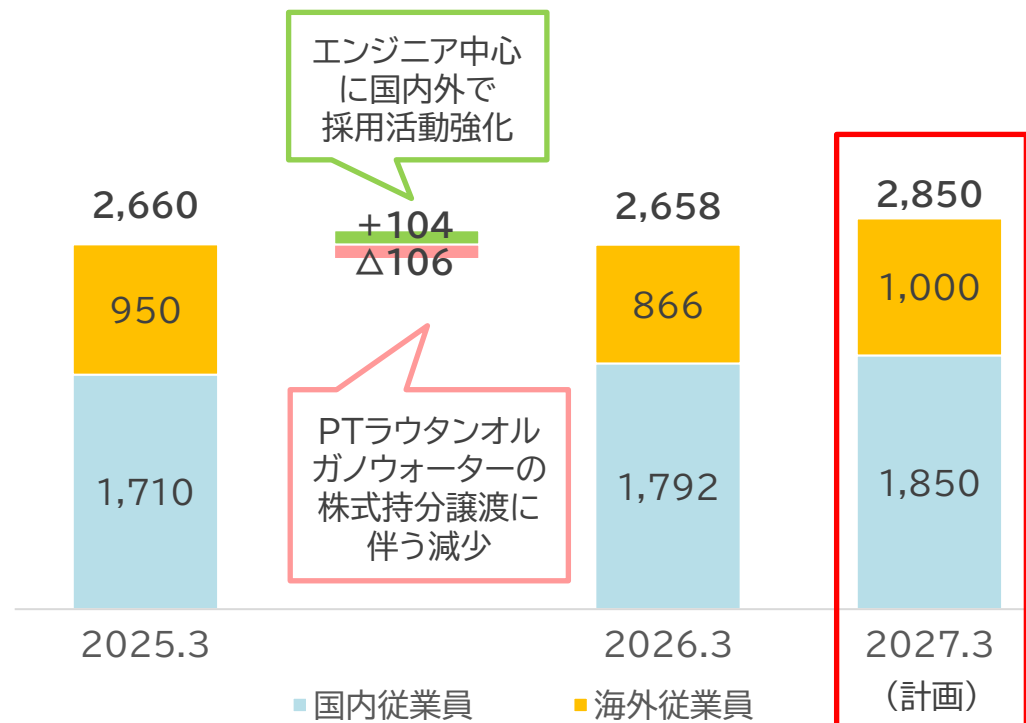
# 主な指標

(単位:百万円)	25.3期	26.3期		27.3期
	通期実績	期初計画	通期実績	通期計画
設備投資額	2,803	3,500	3,520	3,500
技術研究費	3,253	3,600	3,371	3,685
減価償却費	1,925	2,000	1,981	2,000
有利子負債	22,557	35,000	34,402	30,000
従業員数 (人)	2,660	2,860	2,658	2,850

※設備投資額と減価償却費は設備保有型サービスへの投資額・償却費を含まず

## 連結要員計画(国内・海外)

採用強化による要員増に加え、アウトソーシングやデジタル化による効率化などキャパシティ拡大を加速



# 目次

---

1. 26年3月期実績・27年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 参考資料(1) 財務データ集
5. 参考資料(2) 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位未満切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

# 経営理念とビジョン

## ■ 経営理念

オルガノは、水で培った先端技術を駆使して  
未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます

## ■ 長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に事業領域と展開地域を拡大し、  
産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、  
一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

## ■ サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、  
未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します



**E** 水で培った最適化技術\*で、水環境保全や温暖化防止に  
貢献する環境配慮型製品・サービスを提供します

**S** 人権および多様な価値観・個性を尊重し、従業員一人  
ひとりが成長し活躍する職場づくりを推進します

**G** 全てのステークホルダーとの対話と連携を重視し、  
誠実かつ公正な企業活動を遂行します

\*水で培った最適化技術には、水処理に関わる分離・精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、  
その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています



代表取締役社長 山田正幸

# オルガノの歩み(連結売上高推移)

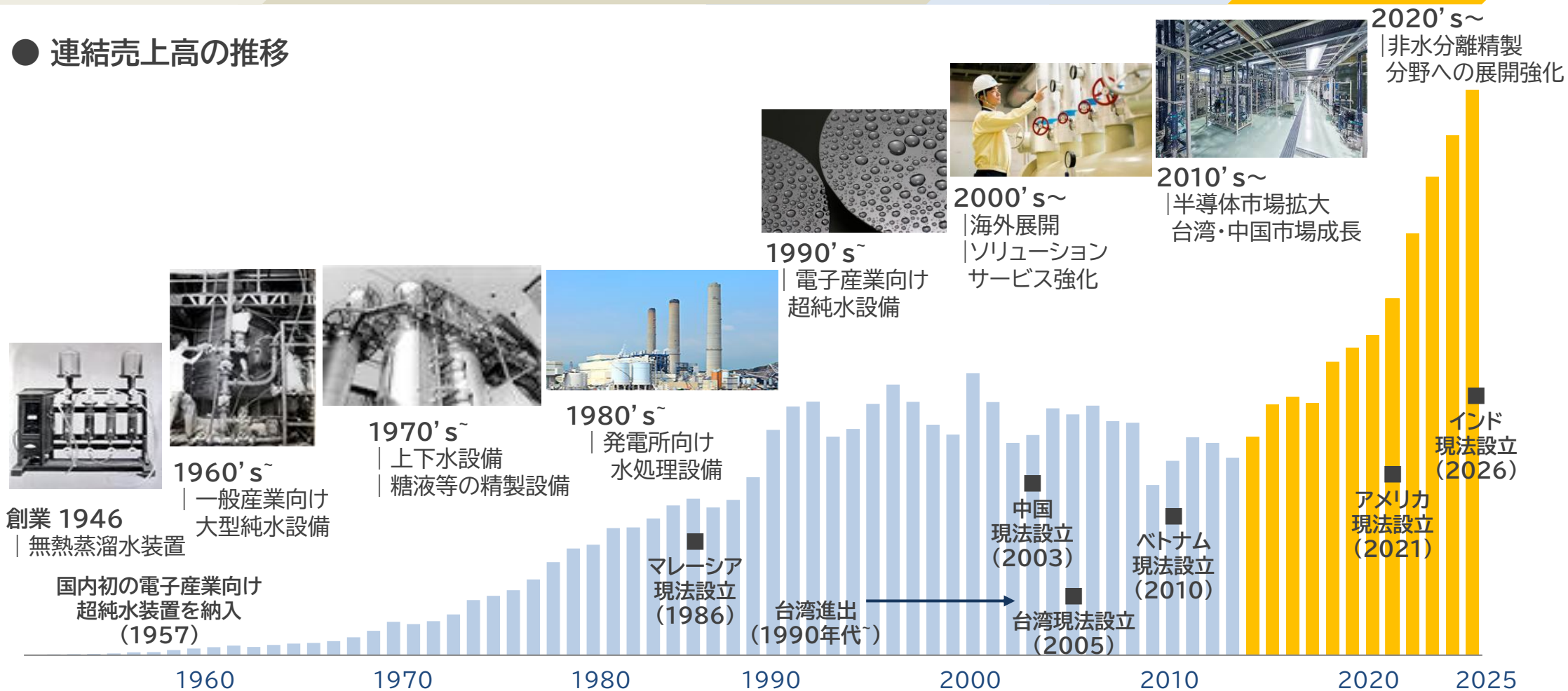
創業期

成長期

成熟期

飛躍期

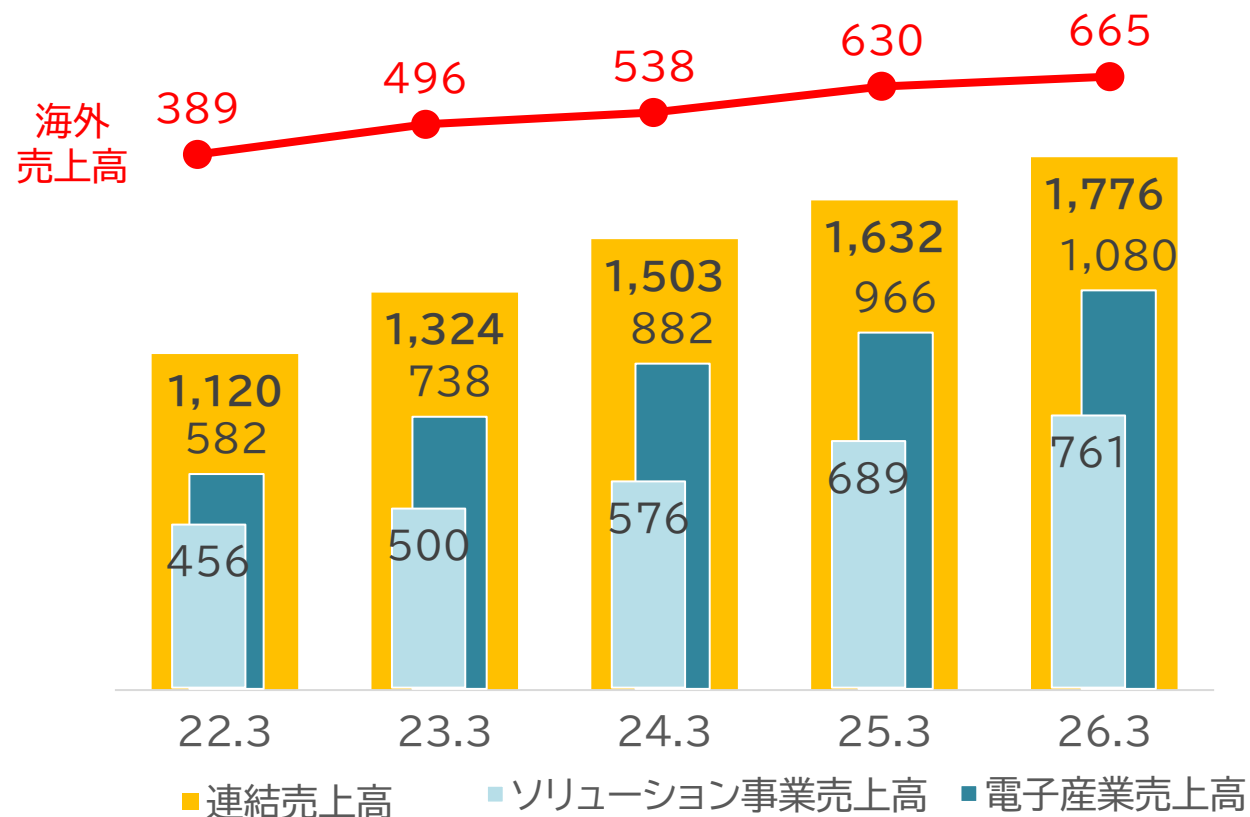
## ● 連結売上高の推移



# 直近の業績拡大の背景

## 業績の推移

(単位:億円)



## 主要背景

### 電子産業分野の伸長

2018年以降の半導体市場の伸びを背景に当社業績も伸長。引き続き国内外の電子産業分野向けを中心とした成長が続くものと期待。

### 台湾・中国など海外市場の拡大

地域別では台湾・中国市場が大きく成長。ファウンドリーやメモリなど各種半導体分野の投資が拡大。

### ソリューション事業の拡大

メンテナンスの順調な増加や設備保有型案件が拡大。

# オルガノの事業構成

## 水処理エンジニアリング事業

### プラント事業



純水・超純水設備  
排水処理・回収設備  
有価物回収設備  
プロセス関連設備

### ソリューション事業

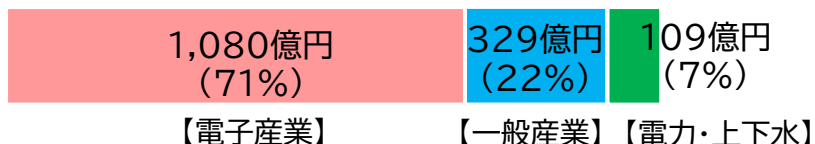


設備メンテナンス  
運転管理・包括契約  
設備増強・改造工事  
設備保有型

### 事業別売上高



### 顧客分野別売上高



## 機能商品事業

### 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・  
RO膜・ボイラ等処理剤

### 標準型機器・機能材事業



純水・超純水製造装置  
フィルタ  
機能材(分離精製材)

### 食品事業



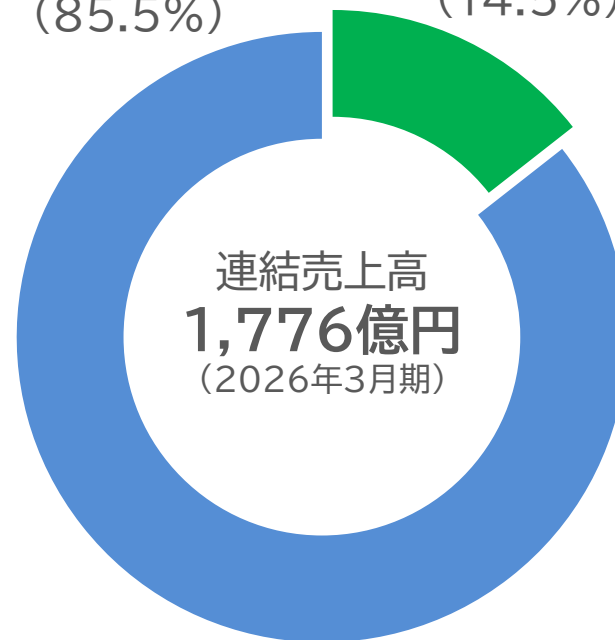
食品添加剤・加工剤  
食品素材

### 事業別売上高



1,519億円  
(85.5%)

256億円  
(14.5%)



※金額は26.3期売上高、%は売上構成比率

# 大株主の状況・株主構成

## 大株主(上位10名)

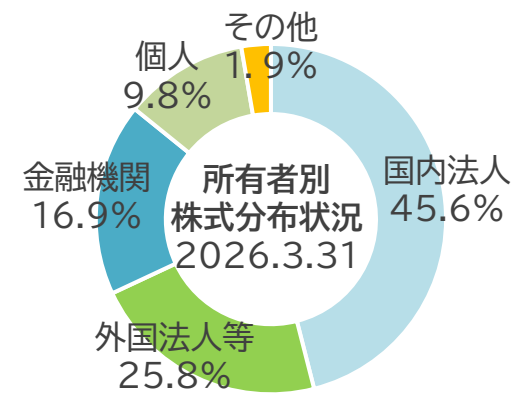
(2026年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー(株)	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	4,592	9.98
(株)日本カストディ銀行(信託口)	1,755	3.81
KBC BANK NV - UCITS CLIENTS NON TREATY	1,111	2.42
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	732	1.59
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE NON TREATY CLIENTS ACCOUNT	717	1.56
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	643	1.40
(株)みずほ銀行	464	1.01
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT - CLIENT ACCOUNT	371	0.81
JP MORGAN CHASE BANK 385781	368	0.80

※持株比率は自己株式(339千株)を控除して計算

## 株主構成

- 発行可能株式総数 101,568千株
- 発行済株式総数 46,359千株  
(自己株式 339千株を含む)
- 株主数 12,177名

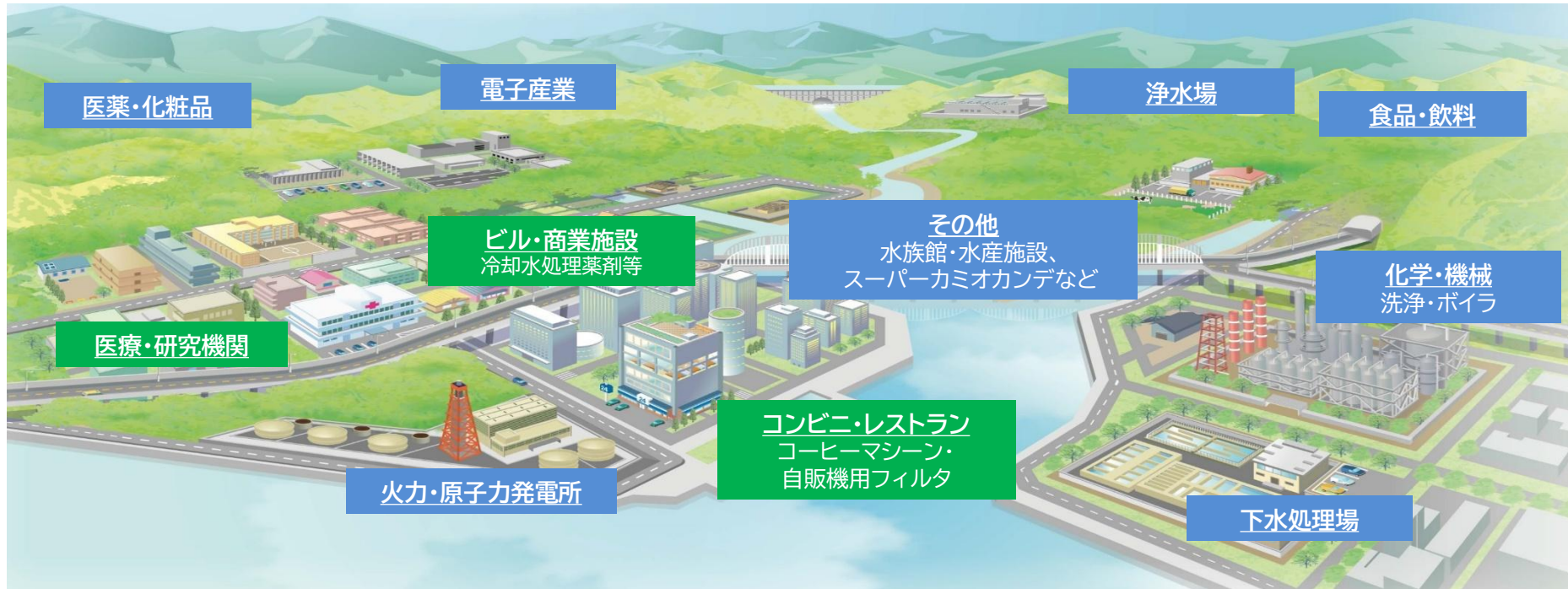


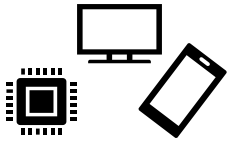

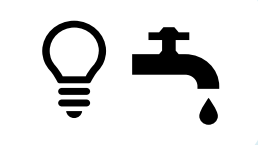



### ●親会社の状況

当社の親会社である東ソー(株)とは1955年に資本参加を受け入れて以来の関係にあります。当社と東ソーとの営業取引関係については、一部原材料の仕入や水処理設備・薬品等の販売取引がありますが、取引の規模は小さく、両者が扱っている製品や取引先の点でも明確な棲み分けがなされております。

当社は上場会社として事業活動や経営判断において一定の経営の独立性が確保されているものと認識しており、親会社グループと少数株主間の利益相反問題を監視・監督するため、独立社外取締役のみで構成される特別委員会を設置するとともに、2023年6月開催の第78回定時株主総会以降、取締役会に占める独立社外取締役の比率を過半数にしております。

# 生活と産業を支えるオルガノの水処理技術

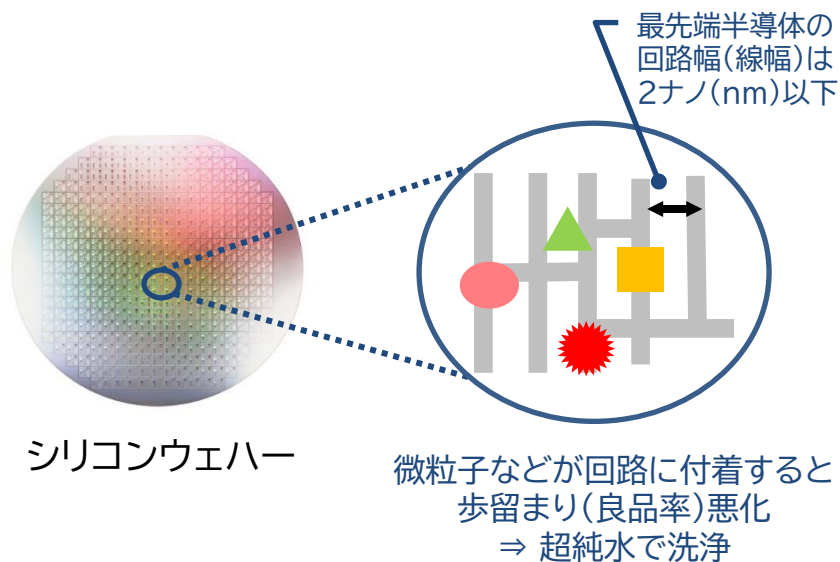


水処理エンジニアリング事業			機能商品事業		
<b>電子産業</b>  半導体・パネル・電子部品等	<b>一般産業</b>  医薬・化粧品、食品・飲料、化学・機械等	<b>社会インフラ</b>  火力・原子力発電所、上下水道	<b>水処理薬品</b>  各種製造業、ビル・商業施設	<b>標準機器・機能材</b>  医療・研究機関、コンビニ・レストラン	<b>食品</b>  食品・飲料、介護・健康食品

# 半導体と水

多くの工程が必要な半導体製造プロセスのうち、3割程度を洗浄工程が占めると言われています。ウェハーの製造、成膜、エッチング、レジストなどの前後で繰り返し行われる洗浄プロセスに超純水が用いられています

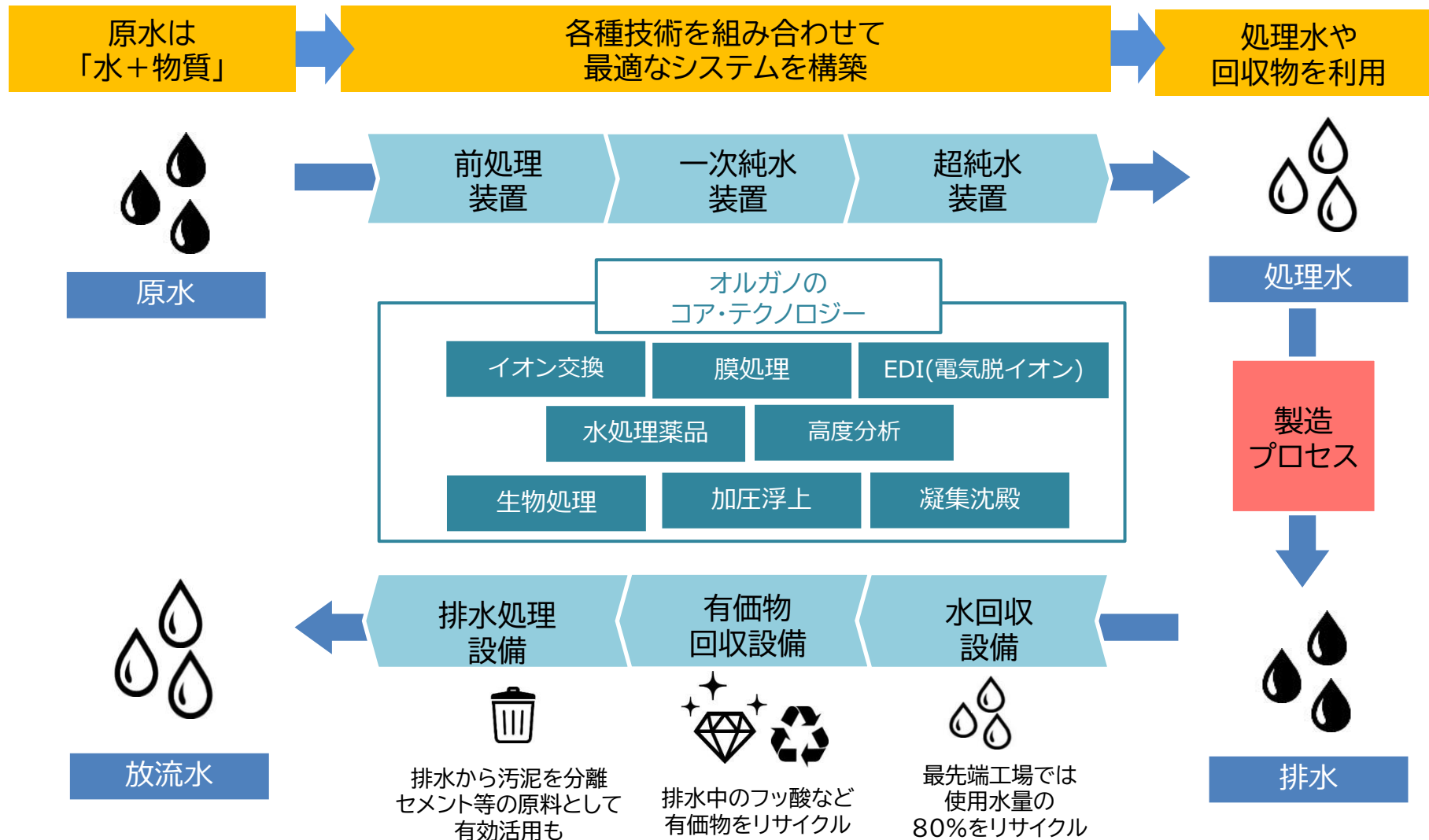
超純水で歩留まり改善に貢献



どこが	どれだけ	すぐれた技術力と価値
不純物濃度	1ppt以下	質量濃度は1兆分の1。オリンピック競泳50mプール(2,500m <sup>3</sup> )の超純水に溶け込んだ不純物の量は僅か耳かき1さじ(2.5mg)分
製造水量	1,000 ton/h	大容量の高性能ポンプや大口径配管を使用。オリンピック競泳50mプール(2,500m <sup>3</sup> )が2時間半で満杯に
水の回収率	80%	半導体工場では洗浄用水など大量の水を使用するが、最先端の工場では80%以上の水を回収し再利用。水のリサイクルだけでなく、排水中に含まれる有価物を回収する技術も活用

オルガノはウェハーやチップの洗浄に用いられる超純水の供給設備、洗浄や他の製造工程で生じる排水を無害化・廃棄物を低減するための処理設備、水のリサイクルシステム、排水からフッ素・レアメタルなどの有価物を回収・再資源化するシステムなどを提供しています

# 電子産業向け水処理設備



# お問い合わせ先

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

オルガノグループレポート2025(統合報告書)

<https://www.organo.co.jp/ir/integrated report/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。